

別添1

令和4年度厚生労働科学研究費補助金
障害者政策総合研究事業

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する
評価ツールの開発のための研究

令和4年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 近藤 尚也

令和5(2023)年 5月

目 次

I. 総括研究報告

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者
の連携に関する評価ツールの開発のための研究 ----- 1

近藤 尚也

(資料) 「連携評価シート」見本

(資料) 相談支援専門員 ・ サービス管理責任者/ 児童発達支援管理責任者
連携評価ツール 活用マニュアルVer. 1.0 見本

II. 分担研究報告

1. 相談支援専門員とサービス管理責任者及び
児童発達支援管理責任者の連携因子の検討 ----- 35

金澤 潤一郎

2. 連携評価ツール活用マニュアルの検討 ----- 38

大久保 薫

3. 連携評価ツールの質的評価検証 ----- 41

鈴木 和

III. 研究成果の刊行に関する一覧表 ----- 45

令和4年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
総括研究報告書

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する
評価ツールの開発のための研究

研究代表者 近藤 尚也 北海道医療大学

研究要旨

本研究では、相談支援専門員と、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者（以下、サビ児管）の連携について、サービス等利用計画と個別支援計画・障害児支援利用計画（以下、個別支援計画等）の連動を効果的に行うための要因や、サビ児管の効果的な連携を進めるための要因を明らかにし、それらを基に実践で活用可能な相談支援専門員とサビ児管の連携業務を評価点検するための尺度及びツールを開発し、提案することを目的とした。当該年度では、これまでの取り組みをもとに連携評価ツール（連携評価シート、活用マニュアル）を作成しその検証を実施したところ、評価ツールの有用性が示唆された。

分担研究者：大久保 薫 札幌学院大学

金澤 潤一郎 北海道医療大学

鈴木 和 北海道医療大学

研究協力者：有野 哲章 社会福祉法人蒼溪会

菊本 圭一 特定非営利活動法人日本相談支援専門員協会

酒井 京子 大阪市職業リハビリテーションセンター

鈴木 智敦 名古屋市総合リハビリテーションセンター

川島 成太 名西郡障がい者基幹相談支援センター

田中 雅之 名古屋市総合リハビリテーションセンター

宮田 理恵 児童発達支援 Blossom

望月 明広 横浜市総合保健医療センター

矢野 太亮 大分市障がい者相談支援センターコーラス

片山 寛信 北海道医療大学

久野 真知子 北翔大学

A. 研究目的

本研究では、相談支援専門員と、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者（以下、サビ児管）の連携について、サー

ビス等利用計画と個別支援計画・障害児支援利用計画（以下、個別支援計画等）の連動を効果的に行うための要因や、サビ児管の効果的な連携を進めるための要因を明ら

かにし、それらを基に実践で活用可能な相談支援専門員とサビ児管の連携業務を評価点検するための尺度及びツールを開発し、提案することを目的とした。当該年度では、これまで取り組みをもとに連携評価ツール（連携評価シート、活用マニュアル）を作成し、その検証を実施した。

B. 研究方法

① 連携評価シートの開発

2021年度に実施した全国調査調査の連携に関する調査票（連携に関する項目57項目）について因子分析を行った。対象データは欠損値のある者を除いた2655件であった。

因子分析で整理された因子をもとに、連携評価シートの開発を進めた。また、作成した連携評価シートについては、検討委員会での意見交換を実施し、内容の精査を進めた。なお、委員会は国内で活躍している相談支援専門員、サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者による検討委員会（9名）として組成した。

② 活用マニュアルの開発

開発した連携評価シートをもとに、活用マニュアルの開発を行った。マニュアルの記載内容として、シートの入力方法のほか記載すべき項目、活用事例を想定し、研究組織における会議及び検討委員会形式の意見交換を通して開発を行った。まず、研究組織にて活用マニュアルの原案を検討し、その内容について検討委員会等で意見交換の上、改定を進めた。

③ 連携評価ツールの評価

完成した連携評価シート及び活用マニュアル（以下、連携評価ツール）について、研修会形式の意見交換を行い、連携評価ツールの改善に向けた検討を行った。研修会参加者は、北海道地域の対象専門職が所属する事業所を北海道が公開している登録事業者一覧からランダムサンプリングを行い1000件に郵送にて案内を送付して募集した。加えて、専門職関係団体等を通して参加の周知を依頼した。

研修会は対面実施を基本としたが、遠方でも参加しやすくなるよう、オンライン方式の参加、オンデマンド方式の視聴も可能とした。なお、対面・オンライン参加者は、評価ツールの説明の後と合わせてグループワークも実施をした。

研修会の内容は、全国調査に関する報告、評価ツールの説明、評価ツール活用体験（演習）、グループワーク意見交換（対面・オンライン参加者のみ）、全体報告（対面・オンライン参加者のみ）であった。

（倫理面への配慮）

本研究は、北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究科倫理審査委員会による審査の上、所属機関長による承認を得て実施した。（21N020020、21N028027、23N001001）

C. 研究結果

① 連携評価シートの開発

2021年度に実施した全国調査の結果について、最尤法による因子分析を行ったところ、4因子構造が妥当と考えられ、再度4因子を仮定して最尤法・Promax回転に

よる因子分析を行った。第1因子は25項目で構成されており、相手とのかかわりに関する主観的内容の項目が高い負荷量を示していた(主体的かかわり意識)。第2因子は9項目で構成されており、会議の場などで直接やり取りを行う行動に関する内容の項目が高い負荷量を示していた(直接的対話行動)。第3因子は10項目で構成されており、周辺環境状況に関する内容の項目が高い負荷量を示していた(周辺環境整備状況)。第4因子は6項目で構成されており、支援計画に関わる行動に関する内容の項目が高い負荷量を示していた(支援計画活用行動)。内的整合性を検討するために α 係数を算出したところ、「第1因子」で $\alpha = .97$ 、「第2因子」で $\alpha = .873$ 、「第3因子」で $\alpha = .867$ 、「第4因子」で $\alpha = .873$ と十分な値が得られた。得られた因子については当初仮定していた意識面、行動面、環境面におおよそ集約していく結果が確認された。

得られた尺度を用いて、連携評価シートを作成した。連携評価シートは、活用のしやすさを前提に、入力容易であること、視覚的直観的に評価内容について把握しやすい、経時的に活用が可能といった点を意識し、マイクロソフト社 Excel を用いて作成を行った。入力用ファイルシートは「シートの説明」「評価シート記入例」「評価シート」「参考用シート」「グラフ大」「評価シート(手書き印刷用)」「評価シート(手書き印刷用(拡大版))」7つとなっている。入力は「評価シート」へ行う。

連携評価シートの項目は、因子分析の結果から4因子50項目を基本としたが、除外された7項目も補助項目として加えた。

また、「シートの説明」「評価シート記入例」の中でツールの説明を記載して(簡易版マニュアル)おり、連携評価シートのみでも活用できるようにした。なお、より詳細な説明を含むものとして活用マニュアル作成し、ツールの説明、活用考え方、活用方法等の内容について整理した。(②の内容参照)。

連携評価シートの入力にあたっては50を超える項目の対応が必要であるが、数値のみの入力となり、比較的短時間で実施可能であり、結果の視覚表示(グラフ化)も自動で行われる形式とした。

② 活用マニュアルの開発

活用マニュアルは、まず研究組織会議にて検討し原案を作成した。大項目としては、「使用に関する留意点」「1. 連携評価ツールの背景とねらい」「2. 連携評価ツールの説明」「3. 連携評価シートの記入方法」「4. 入力した内容の読み取りについて」「5. 活用方法」となった。(資料参照)

連携評価シートの説明に加えて、留意点やねらい等を加えることで、開発したツールの目的が伝わりやすいように配慮を行った。加えて、活用方法の例を記載することで、連携評価ツールの活用イメージを広げられるようにした。

また、活用マニュアル原案について検討委員会を実施して意見交換を行った。出された意見の主な反映点の1つとして、「使用に関する留意点」の内容が挙げられた。点数そのものだけで良し悪しを決めるものではない点を追加、本ツールのねらいとしては、連携状況の「見える化」から客観的

にとらえ支援の質の向上を目指しており、ツール活用を通じた自己理解を一つの視点として整理した。また、「5. 活用方法」について、活用例の追加や、その他の活用例としてセルフスーパービジョンの視点、地域連携の現状確認、また他者との共有が可能であればお互いの認識を確認することなど、柔軟な活用が可能な視点を追記した。その他、活用マニュアルについて委員会を通じた実践的専門的知見から情報を収集し反映させることができた。

③ 連携評価ツールの評価

研修会形式の取り組みから評価を進めた。対面、オンライン、オンデマンド方式で計121名の参加があり、うち対面参加、オンライン参加者は51名であった。

研修内で実施したグループワークによる意見交換では、「他事業所との連携やプログラムの交換が少ない」「相談室、生活介護など、それぞれの考え方や現状を知ることができた」「連携できる事業所とそうではない事業所とのギャップがある」「連携といっても、忙しい相談室のスタッフへの情報提供のツールとして、電話以外にも使い分けをする必要がある」など、ツールの活用を通して現状に関する理解が深まっていた。また、「連携においては、その専門職のそもそもある基礎資格、SW、介福、ヘルパーなどの分野によっても相談支援のスキルに差が生じやすく、また、事業所においても基礎資格や経験値の差によって、連携技術に影響があると感じている」といった専門職のスキルについても触れられていた。「サービスを毎月利用しているが、相談員の報酬算定は毎月ではないので、財

政面を考えると、担当者ケースの数が膨大になりやすく、その結果、電話対応など毎月関わっているが報酬に結びつかない現実」「セルフプランの多い地域では、なかなか事業所と相談支援事業所との連携のハードルがある」「報酬算定の仕組みの改善と専門性の向上の両輪で取り組まなければ、一向にセルフプランに頼らざるを得ない状況が改善しないのではないか」といったように連携に関する取り組みと制度の現状との関連からの課題についても見られていた。

研修会終了時に実施アンケート調査では、35名から回答が得られた。「報告・研修会の内容は今後の業務に活用できると思いますか」では、「思う」が60%（21名）と最も多く、「少し思う」28.6%（10名）、「どちらともいえない」11.4%（4名）と続いていた。「連携評価ツールを今後活用してみようと思いますか」では、「少し思う」が51.4%（18名）と最も多く、「思う」40%（14名）、「どちらともいえない」8.6%（3名）と続いていた。

連携評価ツールに関する意見（自由記述）では、「自分にとって足りない部分や、改善点がわかった」「相談支援専門員とサビ児管との関係性におけるリテラシーについて議論を深めると良いと考えさせられた」「連携ツールについては、『見える化』出来ているところは非常に良い事」「本来業務の確認のきっかけになる」「入力もPCであれば簡単で、結果も即時出るところはストレスなく入力が出来た」といった肯定的な評価が多く挙げられていた。実際活用してみたことで、「連携はできているのではないかと、漠然に思っていた

連携評価シート

実施日 (年月日)

No1～No50の点数欄(当てはまる実施日)に数字「1(全く当てはまらない)」～「6(十分に当てはまる)」を得点欄に記入して下さい。(必要な方は補助項目も記載してください。) ※サビ児管=サービス管理責任者・及び児童発達支援管理責任者

1回目
2回目
3回目

所属
職種 相談支援専門員 サービス管理責任者 児童発達支援管理責任者 その他() (当てはまるものに○)
実施者名
(連携の対象)

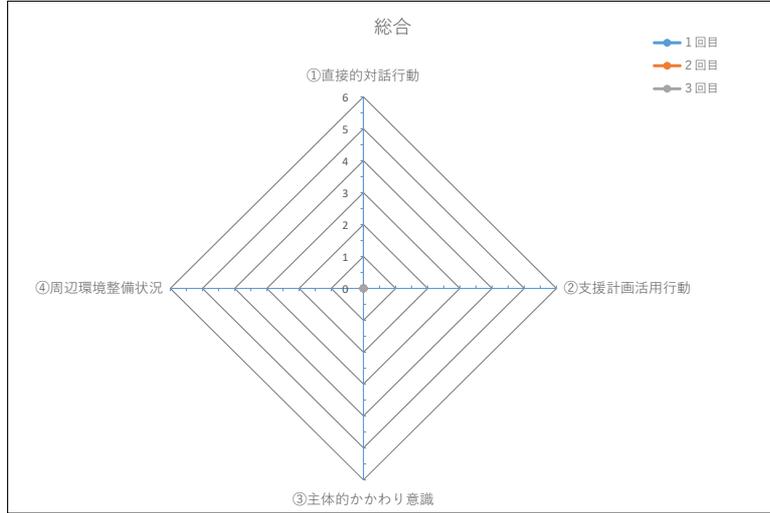
点数「1(全く当てはまらない)」
～「6(十分に当てはまる)」

No	項目	1回目	2回目	3回目	項目別番号
1	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)に参加している				①1
2	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)を主催している				①2
3	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の記録を共有している				①3
4	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている				①4
5	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での発言を積極的にやっている				①5
6	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の欠席時は、記録などの情報を共有している				①6
7	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での内容を支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)に反映させている				①7
8	支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)の内容について意見交換をしている				①8
9	サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している				①9
10	支援計画書(サービス等利用計画書・個別支援計画書)について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している				②1
11	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の目標の運動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている				②2
12	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している				②3
13	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している				②4
14	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している				②5
15	モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している				②6
16	必要な情報はリアルタイムに(素早く)相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている				③1
17	定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている				③2
18	決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている				③3
19	担当利用者のことにかかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている				③4
20	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる				③5
21	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている				③6
22	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている				③7
23	担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる				③8
24	利用者のことで初めてかかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようになっている				③9
25	利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる				③10
26	支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている				③11
27	自身が提供しているサービス(支援)の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている				③12
28	相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス(支援)の具体的な内容について情報収集している				③13
29	利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている				③14
30	関わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている				③15
31	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかっている				③16
32	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援におけるつきあい方がわかっている				③17
33	関わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている				③18
34	相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている				③19
35	相談支援専門員またはサビ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている				③20
36	相談支援専門員またはサビ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている				③21
37	相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができている				③22
38	相談支援専門員またはサビ児管に知りたいことを気軽に聞ける				③23
39	相談支援専門員またはサビ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている				③24
40	相談支援専門員またはサビ児管が関わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している				③25
41	所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる				④1
42	オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている				④2
43	メールやICTを活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている				④3
44	所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある				④4
45	所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある				④5
46	所属組織の中に、スーパービジョン(支援を検討するためのアドバイスなど)体制が整っていると感じる				④6
47	所属組織がある地域に、スーパービジョン(支援を検討するためのアドバイスなど)の環境が整っていると感じる				④7
48	利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めている				④8
49	必要時にすぐにアクセスできるよう利用者の記録情報がわかりやすく整理されている				④9
50	利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している				④10

※補助項目

No	項目	1回目	2回目	3回目	項目別番号
51	個別支援計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している				⑤1
52	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の内容の運動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている				⑤2
53	面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサビ児管に提供している				⑤3
54	利用者の支援にかかわる各種会議記録について、必要な際に相談支援専門員またはサビ児管へ提供している				⑤4
55	相談支援専門員とサビ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している				⑤5
56	支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサビ児管で情報交換を行っている				⑤6
57	利用者の支援につながりそうな地域に関する情報を相談支援専門員とサビ児管で交換している				⑤7

記入が終了したら、「参考用」シートも確認してください。



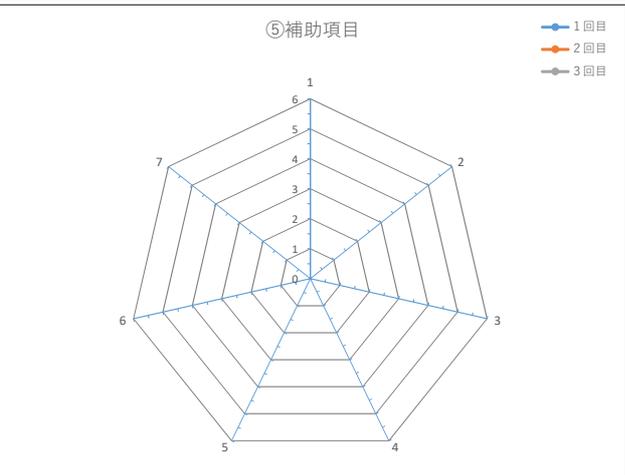
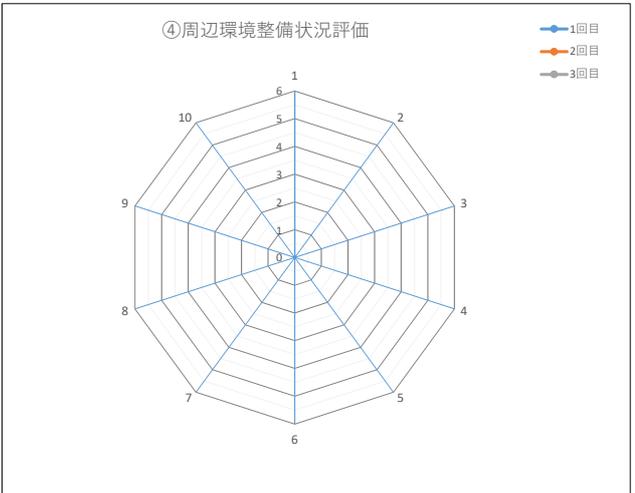
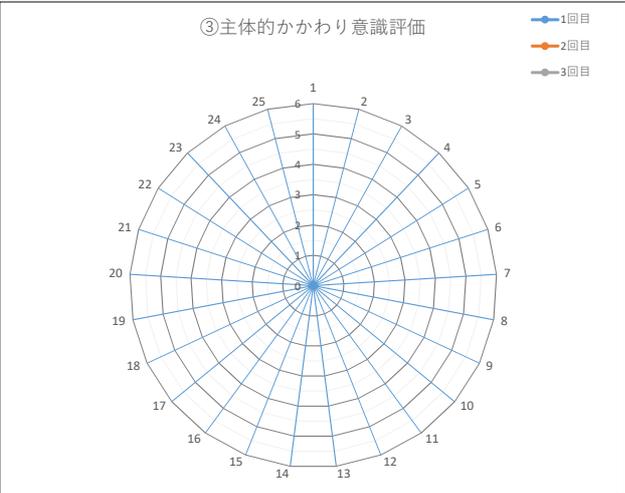
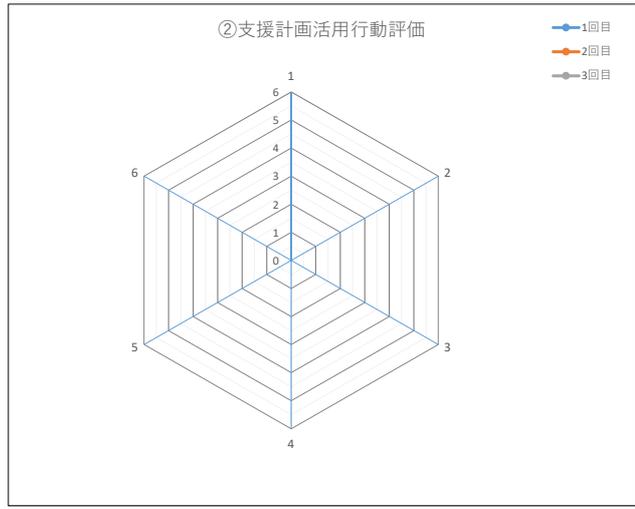
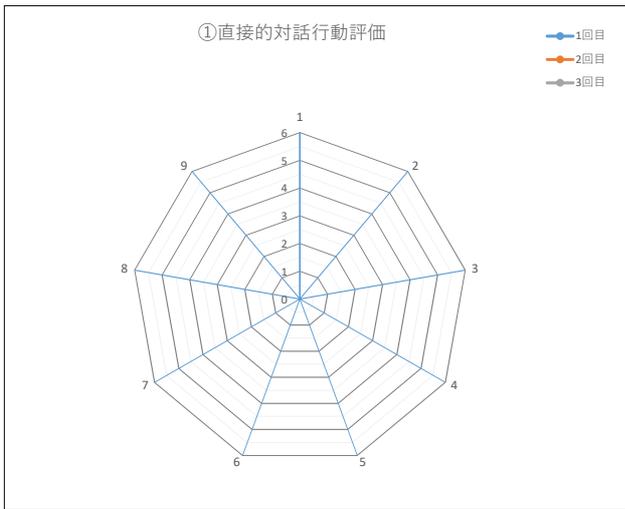
1回目 2回目 3回目
 ①直接的対話行動 #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! 平均
 ②支援計画活用行動 #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! 平均
 ③主体的かかわり意識 #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! 平均
 ④周辺環境整備状況 #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! 平均

1回目 2回目 3回目
 合計 1 0 0 0
 平均 #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0!

1回目 2回目 3回目
 合計 2 0 0 0
 平均 #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0!

1回目 2回目 3回目
 合計 3 0 0 0
 平均 #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0!

1回目 2回目 3回目
 合計 4 0 0 0
 平均 #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0!



1, 連携評価シートの記入方法

・活用する専門職の想定は以下となります

- ・相談支援専門員
- ・サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者

その他の方もご活用いただくことは可能です。

・本シートは、

①**相談支援専門員は、サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者を**

②**サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者は、相談支援専門員を**

想定して記入することが基本となります。

・連携評価シートは、実施者（記入者）が自身の現状について主観的に評価をすることが基本となります。

・シートはMicrosoft Excelのファイル形式となっています。パソコンを用いて必要項目を記入することで、自動でグラフが表示されます。紙媒体を使用する場合は、ご自身でグラフ化してください。

・手書き用シートをご利用の場合は、ご自身でグラフの記載も行ってください。

2-1, 手順 (Excelの場合)

①「評価シート」の上部に実施者の「所属」「職種」「実施者名」を記入します。

また、「連携の対象」を具体化して想定する場合は、こちらも記入してください。

※連携の対象とは、実施者が記入に際して想定する具体的な連携対象となります。一人（個人：A相談支援専門員等）を想定する場合もあれば、複数（例：1年間でやり取りしたサビ管等）を想定する場合があります。

②シート右上に実施日を記入します。（3回分まで同じシートで記入できます。）

③項目の内容について、シート右の記入欄へ1～6の間で数字（半角）を記入（または選択）していきます。なお、実施日と同じ回の欄に記入してください。

数字は「1（全く当てはまらない）」～「6（十分に当てはまる）」となります。

④必要な場合は、補助項目についても数字を記入してください。

⑤入力された数字から、シートの下部に大項目全体に関するグラフ（平均値）、下位項目別に関するグラフ（入力値）が表示されます。

2-2. 手順（手書きの場合）

①「評価シート」の上部に実施者の「所属」「職種」「実施者名」を記入します。

また、「（連携の対象）」を具体化して想定する場合は、こちらも記入してください。

※連携の対象とは、実施者が記入に際して想定する具体的な連携対象となります。一人（個人：A相談支援専門員等）を想定する場合もあれば、複数（例：1年間でやり取りしたサピ管等）を想定する場合があります。

②シート右上に実施日を記入します。

③各項目について、シート右の記入欄へ1～6の間で数字を選択（○つけ）していきます。

数字は「1（全く当てはまらない）」～「6（十分に当てはまる）」となります。

※手書きの場合はシートの数字を記載せず、そのままグラフに記載することも可能です。（記載時間を短縮できます）

④必要な場合は、補助項目についても数字を記入してください。

⑤入力された数字から、シートの下部に大項目全体に関するグラフ（平均値）、下位項目別に関するグラフ（入力値）を記入します。

まずは、各下位項目についてグラフを記載して下さい。項目別番号の①～④までの数字は大項目と対応します。さらにその後の数字は、項目の番号に対応します。

下位項目別の記入が終わったら全体の概要についても記載します。

数値は、大項目ごとの平均値としています。

①直接的対話行動

すべての数字を足して9で割ります。

②支援計画活用行動

すべての数字を足して6で割ります。

③主体的かわり意識

すべての数字を足して25で割ります。

④周辺環境整備状況

すべての数字を足して10で割ります。

3, 入力した内容の読み取りについて

本シートは、主に自己評価として個人の進捗状況を評価し、見える化することを目的としています。

入力シート (Excel) は3回分の入力を可能としています。1年目、2年目、3年目と経過を辿って継続的に活用することも可能です。

- ・総合評価では、大項目の平均値が記載されます。大項目全体像の評価としてご活用ください。
- ・項目別のグラフには番号が記載されています。それぞれ「項目別番号と対応」しているので、照合して確認します。

- ・数字が大きいほど実施できている項目、意識できている項目ととらえることができます。
- ・グラフの中で他より低くなっている項目があった場合は、苦手であったり、うまくいってなかったりする項目かもしれません。意識することで改善や質の向上につながることも考えられます。

補足

「参考用」シートでは、大項目ごとにグラフを並べています。項目、数値、グラフが確認しやすくなっています。

「参考用」シートには、全国調査における平均値が記載されています。見える化された自身の数値と比べることが可能です。

ただし、本数値はあくまでも参考値であり、平均値より高いから十分、低いから不十分とは一概に言えませんので注意して活用してください。

4, 活用方法

進捗評価シートの結果について、実施者のニーズに合わせて、様々な活用が可能です。使用する方の目的に合わせて活用してください。

評価結果として数値が算出されます。数値が小さい場合、その項目を意識して、行動することで、進捗の質の向上につながるかもしれません。(ただし、現在の取り組みの中で実践する必要がない項目などは数値が低くなる場合があります)

このエクセルファイルには、以下のシートがあります。

説明シート
評価シート (記入例) 共通の確認用シートです

評価シート
参考用シート Excel入力で使用するシートです

評価シート (手書き印刷用) 手書きをする場合に印刷するシートです
評価シート (手書き印刷用) (拡大版) 手書きをする場合に印刷するシートです

連携評価シート

No1～No50の点数欄（当てはまる実施日に数字「1（全く当てはまらない）」～「6（十分に当てはまる）」を得点欄に記入して下さい。（必要な方は補助項目も記載してください。） ※サビ児管＝サービス管理責任者・及び児童発達支援管理責任者

実施日（年月日）	
1回目	2022年12月3日
2回目	2023年2月2日
3回目	

所属 職種 相談支援専門員 サービス管理責任者 児童発達支援管理責任者 その他（ ）（当てはまるものに○）

実施者名
（連携の対象）

点数「1（全く当てはまらない）」～「6（十分に当てはまる）」

No	項目	1回目	2回目	3回目	項目別番号
1	相談支援専門員 赤枠内を記載する 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）に参加している	2	3	4	①1
2	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）を主催している	2	3	4	①2
3	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）において、必要に応じて連携の相手（個人・複数など）を想定したうえで記載してください。	2	4	5	①3
4	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）のときに、必要としていること	2	4	5	①4
5	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での発言を積極的に行っている	2	4	5	①5
6	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の欠席時は、記録などの情報を共有しているのかを「1（全く当てはまらない）」～「6（十分に当てはまる）」の範囲で記載。	2	3	5	①6
7	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での内容を支援計画（サービス等）	2	3	5	①7
8	支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）の内容について意見交換をしている	2	3	4	①8
9	サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している	2	3	4	①9
10	支援計画書（サービス等利用計画書・個別支援計画書）について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している	3	2	4	②1
11	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の目標の達成について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている	3	2	4	②2
12	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している	3	2	4	②3
13	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している	3	2	4	②4
14	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している	3	2	4	②5
15	モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している	3	2	4	②6
16	必要な情報はリアルタイムに（素早く）相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている	4	2	5	③1
17	定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている	4	3	5	③2
18	決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている	2	3	5	③3
19	担当利用者のことでかかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている	1	3	5	③4
20	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる	2	3	5	③5
21	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている	2	4	5	③6
22	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている	2	4	5	③7
23	担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる	3	4	5	③8
24	利用者のことで初めてかかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようになっている	3	5	5	③9
25	利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる	3	2	5	③10
26	支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている	2	2	5	③11
27	自身が提供しているサービス（支援）の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている	3	2	5	③12
28	相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス（支援）の具体的な内容について情報収集している	2	3	5	③13
29	利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている	1	2	5	③14
30	関わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている	1	4	5	③15
31	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかっている	2	2	5	③16
32	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援におけるつきあい方がわかっている	2	5	5	③17
33	関わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている	1	5	5	③18
34	相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている	1	5	5	③19
35	相談支援専門員またはサビ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている	1	5	5	③20
36	相談支援専門員またはサビ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている	2	2	5	③21
37	相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができている	4	4	5	③22
38	相談支援専門員またはサビ児管に知りたいことを気軽に聞ける	2	5	5	③23
39	相談支援専門員またはサビ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている	3	5	5	③24
40	相談支援専門員またはサビ児管が関わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している	5	2	5	③25
41	所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる	5	5	4	④1
42	オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている	5	5	4	④2
43	メールやICTを活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている	1	5	4	④3
44	所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある	2	5	4	④4
45	所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある	2	3	4	④5
46	所属組織の中に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）体制が整っていると感じる	2	3	4	④6
47	所属組織がある地域に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）の環境が整っていると感じる	1	3	4	④7
48	利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めている	3	2	4	④8
49	必要時にすぐにアクセスできるように利用者の記録情報がわかりやすく整理されている	2	3	4	④9
50	利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している	2	3	4	④10

※補助項目

No	項目	1回目	2回目	3回目	項目別番号
51	個別支援計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している	2	2	3	⑤1
52	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の内容の達成について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている	2	2	3	⑤2
53	面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサビ児管に提供している	5	2	3	⑤3
54	利用者の支援にかかわる各種会議記録について、必要に際して相談支援専門員またはサビ児管へ提供している	1	2	3	⑤4
55	相談支援専門員とサビ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している	2	2	3	⑤5
56	支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサビ児管で情報交換を行っている	3	2	3	⑤6
57	利用者の支援につながるような地域に関する情報を相談支援専門員とサビ児管で交換している	3	2	3	⑤7

記入が終了したら、「参考用」シートも確認してください。

表に数値を入力すると青枠にグラフ等で概要が表示。また、必要な人は「参考用」シートも確認。

	1回目	2回目	3回目	平均
①直接的対話行動	2.00	3.33	4.56	平均
②支援計画活用行動	3.00	2.00	4.00	平均
③主体的かかわり意識	2.32	3.44	5.00	平均
④周辺環境整備状況	2.50	3.70	4.00	平均

	1回目	2回目	3回目
合計 1	18	30	41
平均	2.00	3.33	4.56

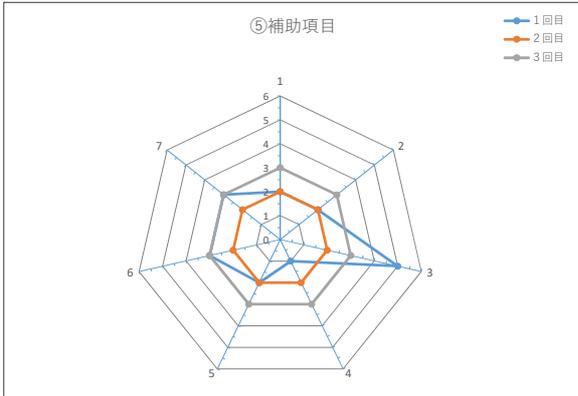
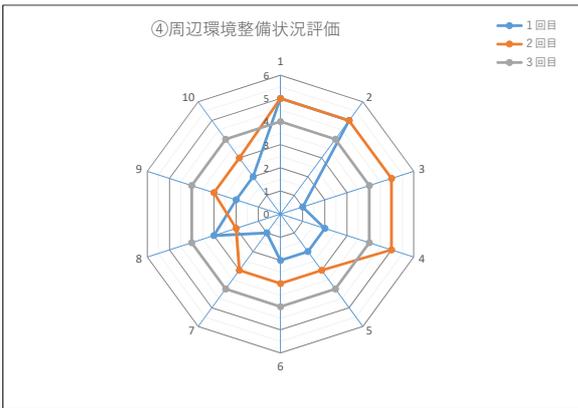
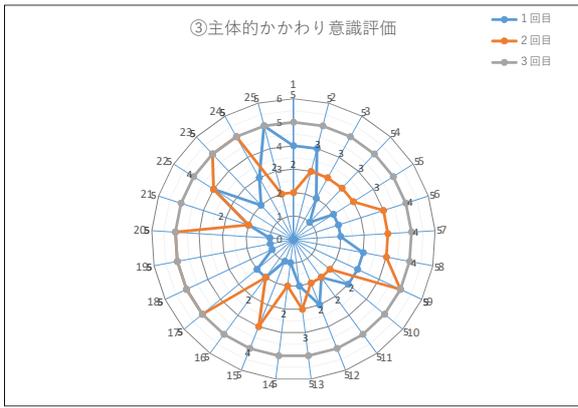
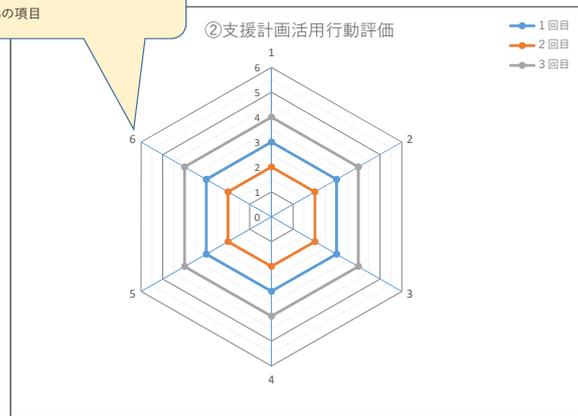
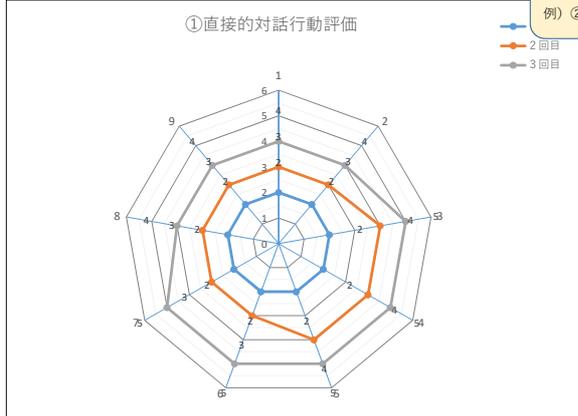
	1回目	2回目	3回目
合計 2	18	12	24
平均	3.00	2.00	4.00

	1回目	2回目	3回目
合計 3	58	86	125
平均	2.32	3.44	5.00

	1回目	2回目	3回目
合計 4	25	37	40
平均	2.50	3.70	4.00

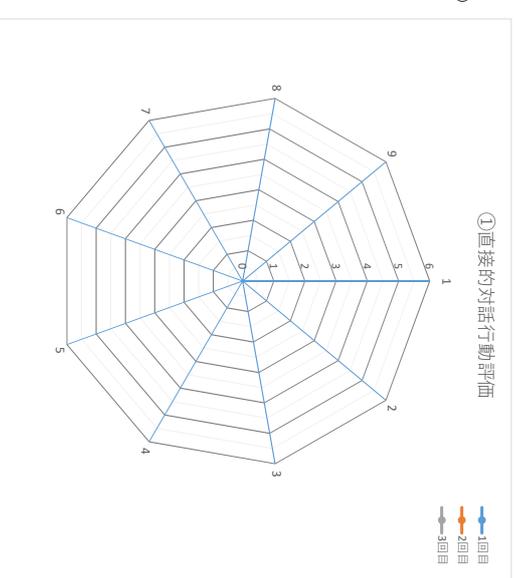
シートに数値を入力することで、グラフが作成されます。

数字は項目別番号に対応。シートの番号と照らし合わせて確認。
例) ②6の項目



参考シート（項目の確認、参考値との比較にお使いください）

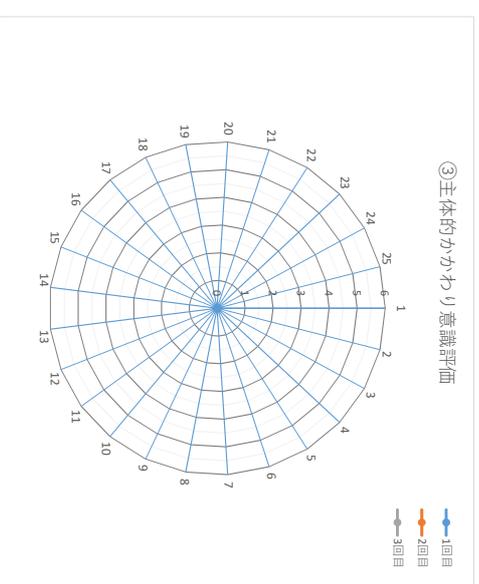
項目説明番号	1回目			2回目			3回目			グラフ対応 項目別番号	参考 平均値 (2655件)
	1	2	3	1	2	3	1	2	3		
1 26 相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）に参加している	0	0	0	0	0	0	0	0	0	①1	4.9
2 27 相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）を主催している	0	0	0	0	0	0	0	0	0	①2	3.8
3 28 相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の記録を共有している	0	0	0	0	0	0	0	0	0	①3	4.5
4 29 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）のときに、必要として情報を提供している	0	0	0	0	0	0	0	0	0	①4	5.1
5 30 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での発言を積極的にしている	0	0	0	0	0	0	0	0	0	①5	4.9
6 31 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での内容を支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）に共有している	0	0	0	0	0	0	0	0	0	①6	4.5
7 32 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での内容を支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）に反映させている	0	0	0	0	0	0	0	0	0	①7	5.0
8 33 支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）の内容について意見交換をしている	0	0	0	0	0	0	0	0	0	①8	4.7
9 34 サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している	0	0	0	0	0	0	0	0	0	①9	4.4



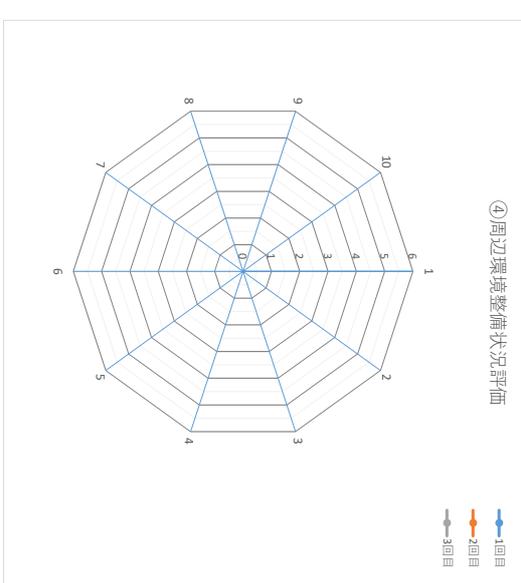
項目説明番号	1回目			2回目			3回目			グラフ対応 項目別番号	参考 平均値 (2655件)
	1	2	3	1	2	3	1	2	3		
1 45 支援計画書（サービス等利用計画書・個別支援計画書）について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②1	3.3
2 46 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の目標の進捗について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②2	4.0
3 47 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②3	4.0
4 48 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②4	3.7
5 49 利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②5	4.2
6 50 モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②6	3.7



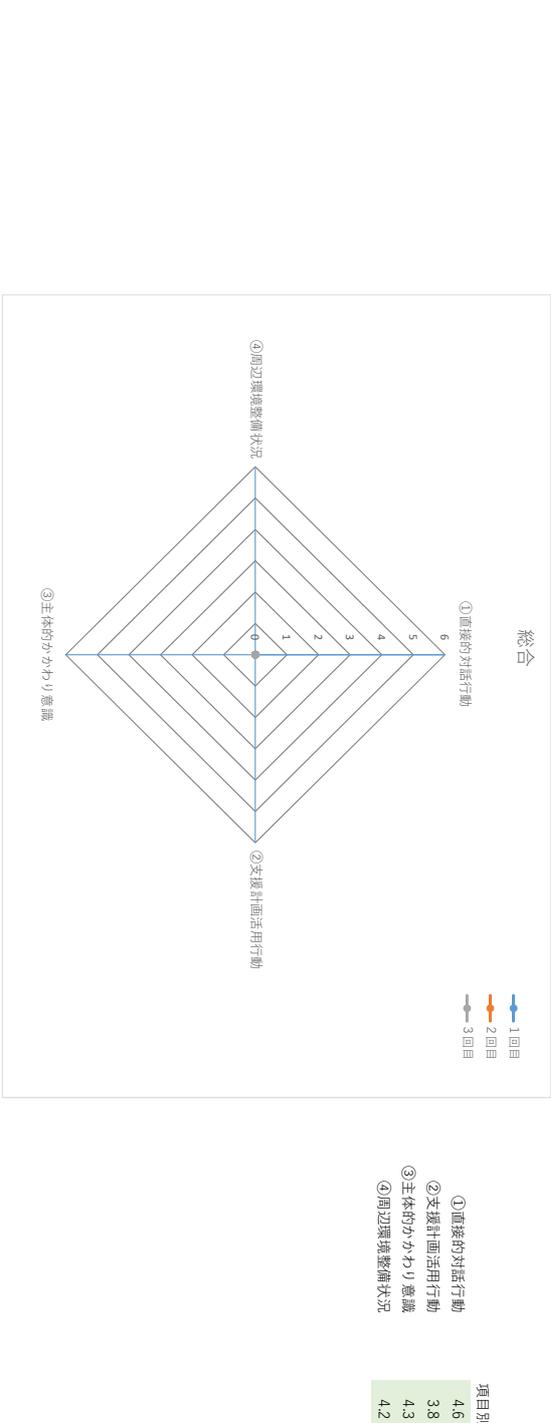
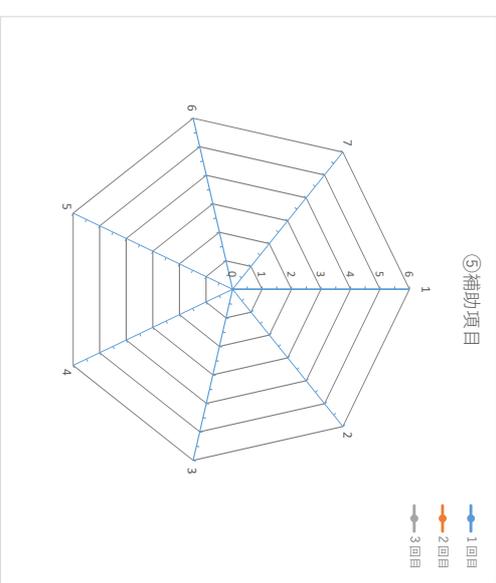
	1回目	2回目	3回目	
1 必要な情報はリアルタイムに（素早く）相談支援専門員とサピ児管で共有を行っている	0	0	0	③1 4.4
2 定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサピ児管で行っている	0	0	0	③2 4.3
3 決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサピ児管で定期的な連絡を取っている	0	0	0	③3 4.0
4 担当利用者のことでかわる相談支援専門員またはサピ児管の順と名前がわかっている	0	0	0	③4 4.9
5 担当利用者のことで相談支援専門員またはサピ児管に躊躇せずに連絡ができる	0	0	0	③5 4.9
6 担当利用者のことで相談支援専門員またはサピ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている	0	0	0	③6 4.3
7 担当利用者のことで相談支援専門員またはサピ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている	0	0	0	③7 4.5
8 担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサピ児管へ相談できる	0	0	0	③8 4.2
9 利用者のことで初めてかわる相談支援専門員またはサピ児管とは、集中的に連絡を取るようになっている	0	0	0	③9 4.0
10 利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサピ児管へ意見を伝えられる	0	0	0	③10 4.4
11 支援のための役割分担が相談支援専門員とサピ児管の間で明確にされている	0	0	0	③11 4.1
12 12 自身が提供しているサービス（支援）の具体的な内容を相談支援専門員やサピ児管に伝えている	0	0	0	③12 4.4
13 13 相談支援専門員またはサピ児管が提供しているサービス（支援）の具体的な内容について情報収集している	0	0	0	③13 4.2
14 14 利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている	0	0	0	③14 4.9
15 15 関わる相談支援専門員またはサピ児管の性格がわかっている	0	0	0	③15 3.9
16 16 関わる相談支援専門員またはサピ児管の支援に対する価値観がわかっている	0	0	0	③16 3.8
17 17 関わる相談支援専門員またはサピ児管の支援におけるつきあい方がわかっている	0	0	0	③17 4.0
18 18 関わる相談支援専門員またはサピ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている	0	0	0	③18 4.0
19 19 相談支援専門員またはサピ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている	0	0	0	③19 4.2
20 20 相談支援専門員またはサピ児管からの連絡へはできるだけ早く行っている	0	0	0	③20 4.9
21 21 相談支援専門員またはサピ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている	0	0	0	③21 4.5
22 22 相談支援専門員またはサピ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができている	0	0	0	③22 4.5
23 23 相談支援専門員またはサピ児管に知りたいたいことを気軽に聞ける	0	0	0	③23 4.6
24 24 相談支援専門員またはサピ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている	0	0	0	③24 3.8
25 25 相談支援専門員またはサピ児管が関わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している	0	0	0	③25 3.5



	1回目	2回目	3回目		1回目	2回目	3回目
1 35 所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる	0	0	0	④1	4.3		
2 36 オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている	0	0	0	④2	4.6		
3 37 メールやICTを活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている	0	0	0	④3	4.4		
4 38 所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある	0	0	0	④4	4.0		
5 39 所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある	0	0	0	④5	4.1		
6 40 所属組織の中に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイザーなど）体制が整っていると感じる	0	0	0	④6	3.6		
7 41 所属組織がある地域に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイザーなど）の環境が整っていると感じる	0	0	0	④7	3.4		
8 42 利用者の状況が急に変ったときの対応や連絡先を決めている	0	0	0	④8	4.6		
9 43 必要時にすぐにアクセスできるよう利用者の記録情報がわかりやすく整理されている	0	0	0	④9	4.7		
10 44 利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している	0	0	0	④10	4.2		

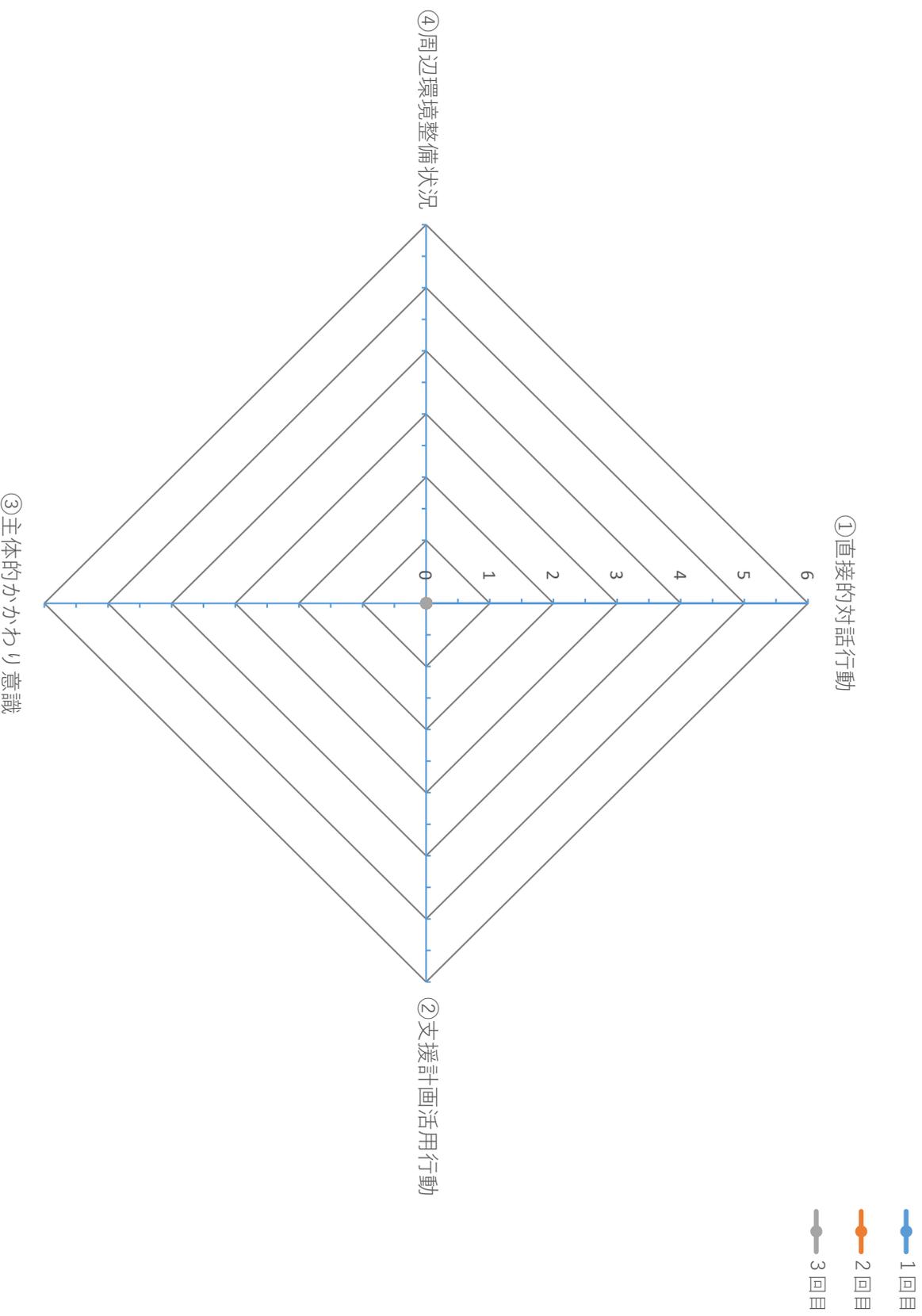


	1回目	2回目	3回目		1回目	2回目	3回目
1 51 個別支援計画の内容について相談支援専門員とサピ児管で相互に確認している	0	0	0	⑤1	3.9		
2 52 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の内容の運動について相談支援専門員とサピ児管は相互の合意を得ている	0	0	0	⑤2	4.0		
3 53 面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサピ児管に提供している	0	0	0	⑤3	4.5		
4 54 利用者の支援にかかわる各種会議記録について、必要の際に相談支援専門員またはサピ児管へ提供している	0	0	0	⑤4	4.3		
5 55 相談支援専門員とサピ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している	0	0	0	⑤5	4.5		
6 56 支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサピ児管で情報交換を行っている	0	0	0	⑤6	3.9		
7 57 利用者の支援につながりそうな地域に関する情報を相談支援専門員とサピ児管で交換している	0	0	0	⑤7	3.6		

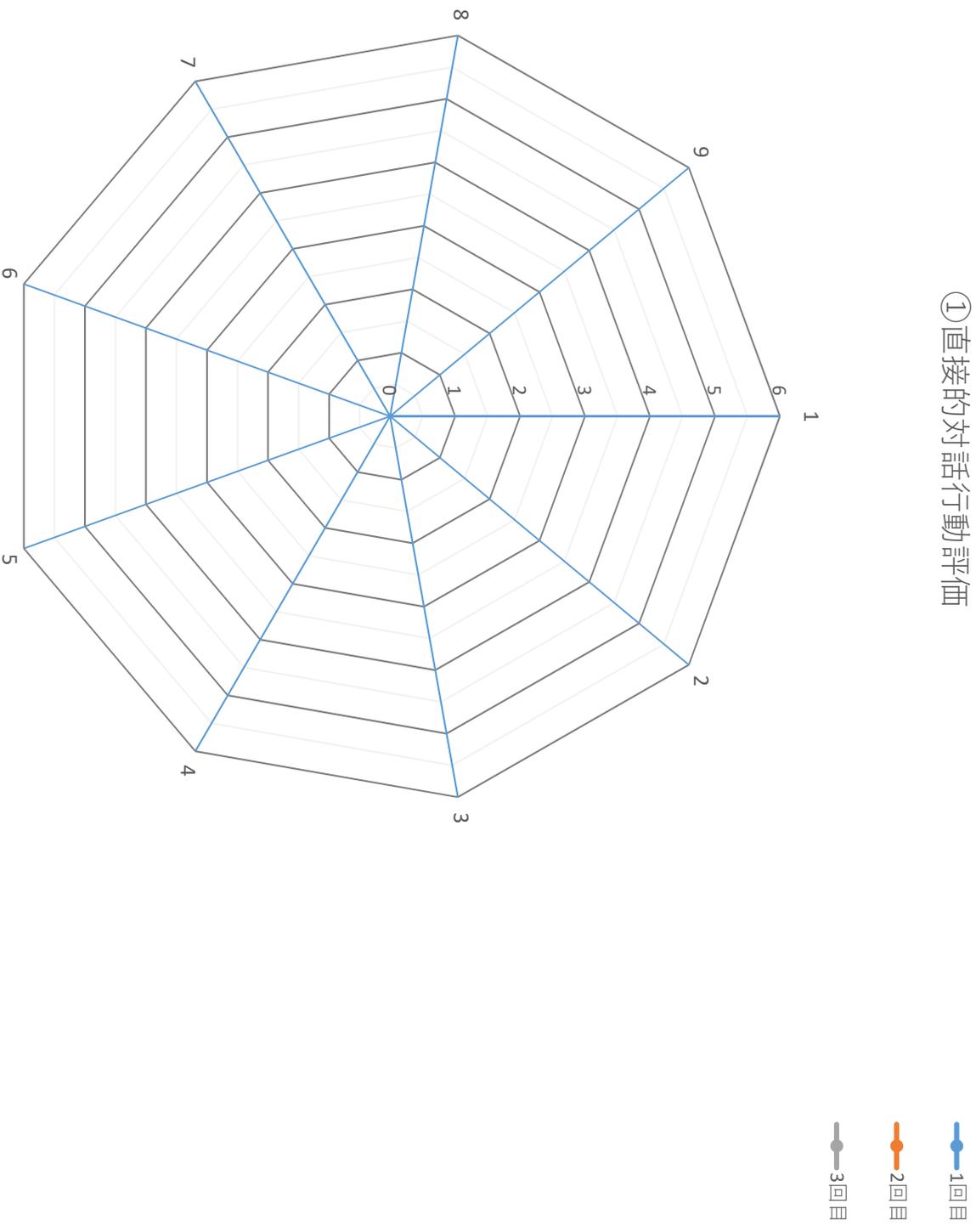


項目別平均	1回目	2回目	3回目
①直接的対話行動	4.6		
②支援計画活用行動	3.8		
③主体的かかわり意識	4.3		
④周辺環境整備状況	4.2		

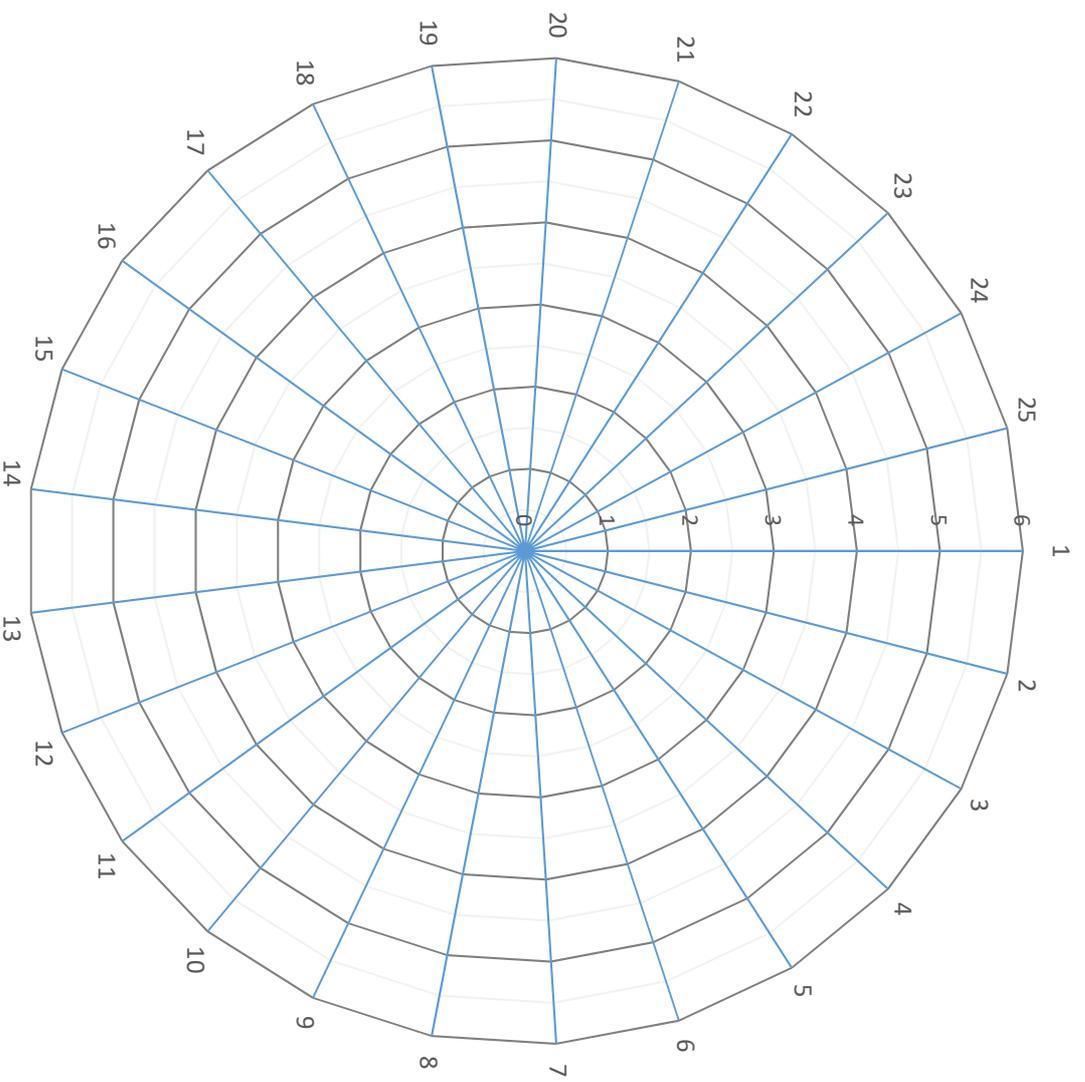
総合



①直接的對話行動評価



③主体的かかわり意識評価

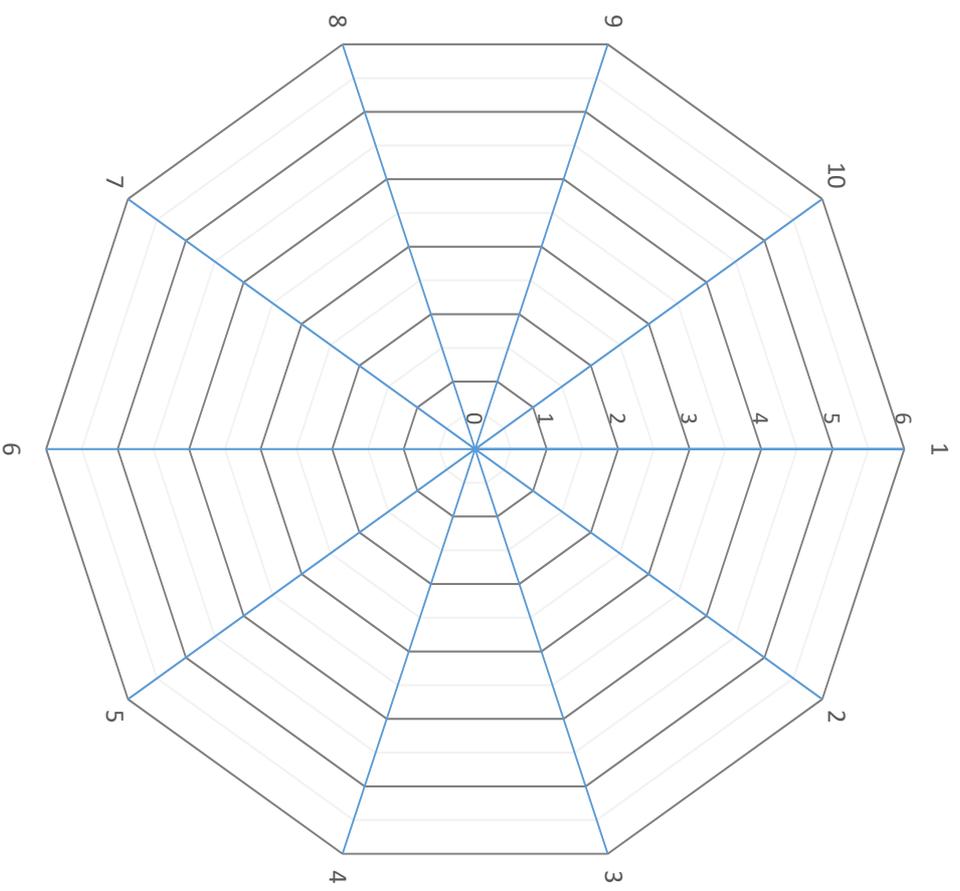


—●— 1回目

—●— 2回目

—●— 3回目

④周辺環境整備状況評価

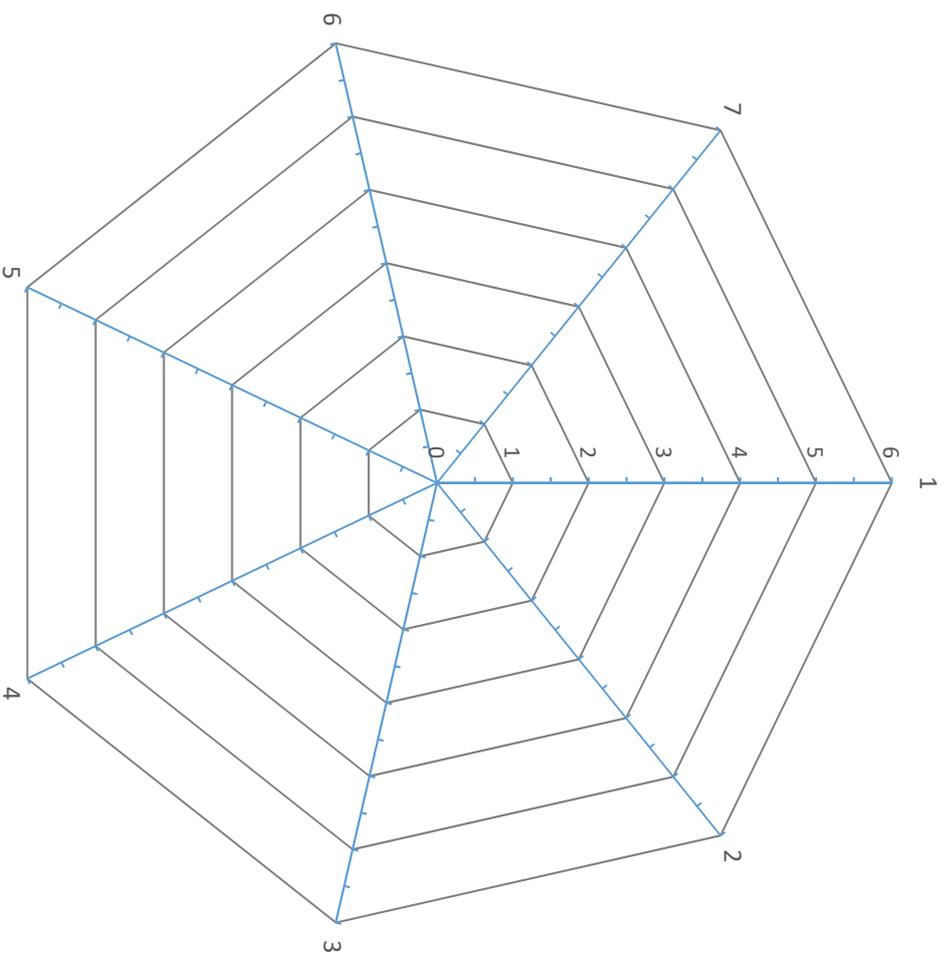
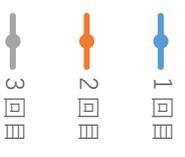


● 1回目

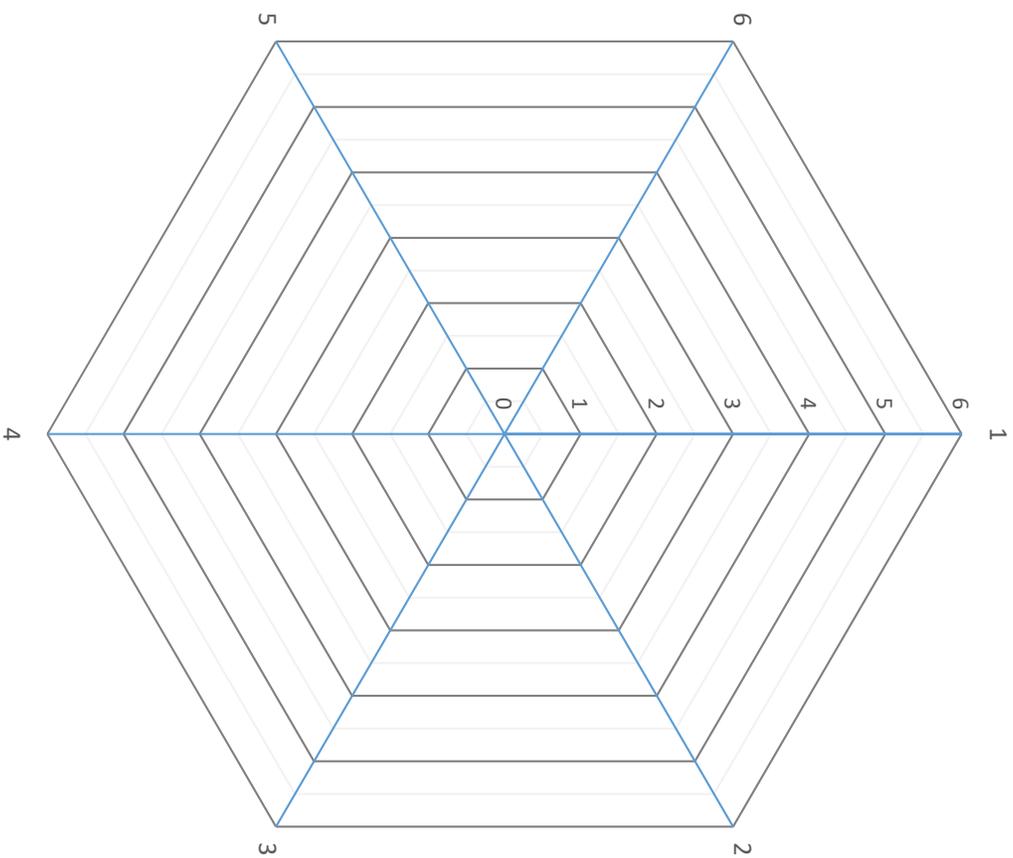
● 2回目

● 3回目

⑤補助項目



②支援計画活用行動評価



1回目

2回目

3回目

相談支援専門員・サービス管理責任者 / 児童発達支援管理責任者
連携評価ツール 活用マニュアル



Ver.1.0

 連携評価ツールの背景とねらい	3
(ア) 連携評価ツール作成の背景	3
(イ) 連携評価ツールのねらい	3
 連携評価ツールの説明	4
(ア) 連携評価シートについて (シートの具体的な内容は記入方法参照)	4
(イ) 各大項目と下位項目について	5~8
 連携評価シートの記入方法	9~12
 入力した内容の読み取りについて	13
(ア) グラフについて	14~17
 活用方法	18
活用例 1 個人による連携状況に関する自己評価	18
活用例 2 連携がうまくいっていないと感じた際の状況確認	19
活用例 3 研修における自己評価を通して連携の質を高める	19
活用例 4 使用する大項目を絞った活用	20
 参考資料	21~22

連携評価ツールは以下により構成しています。

- ①連携評価シート(Excelファイルor用紙)
- ②活用マニュアル(本冊子)

※連携評価シートのみで活用することが可能です。

本ツールのねらいについてご理解のうえでご使用ください。

- ・連携状況について「見える化」し、客観的にとらえ、支援の質の向上等を目指しています。
- ・点数そのものだけで良し悪しを決めるものではありません。現状を把握し、今後の取り組みの参考等として活用してください。
- ・本ツールは様々な形で活用いただけることを想定しています。「5.活用方法」などもご参照ください。
- ・評価は自己評価の視点が中心になります。解釈の際にはご注意ください。

活用を想定する専門職は以下となります。

- ・相談支援専門員
(相談支援専門員が活用する場合は、サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者との連携を想定しています。)
 - ・サービス管理責任者/児童発達支援管理責任者
(サービス管理責任者/児童発達支援管理責任者が活用する場合は、相談支援専門員との連携を想定しています。)
- ※その他の職種の方もご活用いただくことは可能ですが、評価項目がなじまない場合があります。

シートの記入にあたって

- ・シートの項目は細かな説明をあえてしていません。考えすぎず直観的にご記載ください。

その他

- ・連携評価シートの記入項目は50項目(+7項目)あります。
- ・本ツールは今後も改定を重ねていく予定です。

1 連携評価ツールの背景とねらい

(ア) 連携評価ツール作成の背景

相談支援などの質の向上から近年、主任相談支援専門員の設置や相談支援従事者研修標準カリキュラム改正が行われ、新たなカリキュラムでは「相談支援専門員とサービス管理責任者等との連携のあり方とその重要性、サービス等利用計画等と個別支援計画の関係」「サービス等利用計画と個別支援計画等との内容の整合性を確認することの重要性」といった内容が示されました。また、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者（以下サビ児管）に関して、「サービス管理責任者等の業務実態の把握と質の確保に関する調査研究事業」（株式会社ピュアスピッツ2017）にて、「他の福祉サービス等との連携を含めて個別支援計画に位置づける」ことや、「他の機関と分担して支援活動をしたときの結果報告」等、連携に関する内容の重要性が認識されています。しかし、障害福祉専門職に関わる連携や支援計画の運動の重要性が述べられているものの、その評価ツールの開発へは至っていませんでした。そこで、相談支援専門員とサビ児管の連携を評価点検するためのツールを開発し提案することを目的としました。今後も継続的な取り組みから、連携評価ツールの改善を目指していきます。

参考：株式会社ピュアスピッツ(2017)厚生労働省平成28年度障害者総合福祉推進事業サービス管理責任者等の業務実態の把握と質の確保に関する調査研究事業 報告書

(イ) 連携評価ツールのねらい

- 1、連携に関する評価を見える化することで、できていない点や、得意・苦手な点等を客観的に確認することができ、連携に関する取り組みの改善につながることを期待しています。
- 2、相談支援専門員とサビ児管の連携について見える化することで、連携を通じた質の高いサービス提供について、具体的な内容の意識化につながることを期待しています。
- 3、近年の福祉課題として、複雑化・複合化した課題が増加しているといわれている中で、多様な支援対象者に対しても多職種・多機関チームとして連携・協働が求められており、ツールの活用を通じた支援体制整備を期待しています。
- 4、連携をするための環境について評価していくことで、ICT等テクノロジーの活用を促進し、人材不足や業務負担の軽減、効率的な業務対応に寄与することを期待しています。

2 連携評価ツールの説明

連携の状況について「見える化」し、客観的に連携の状況についてとらえることを目的としています。なお、自己評価の視点が基本となります。

この連携評価ツールは、①「連携評価シート」と、②「活用マニュアル」で構成されています。「連携評価シート」に入力するだけで簡単に活用可能ですが、「活用マニュアル(本誌)」をご覧ください。ことで、よりスムーズに活用することができます。

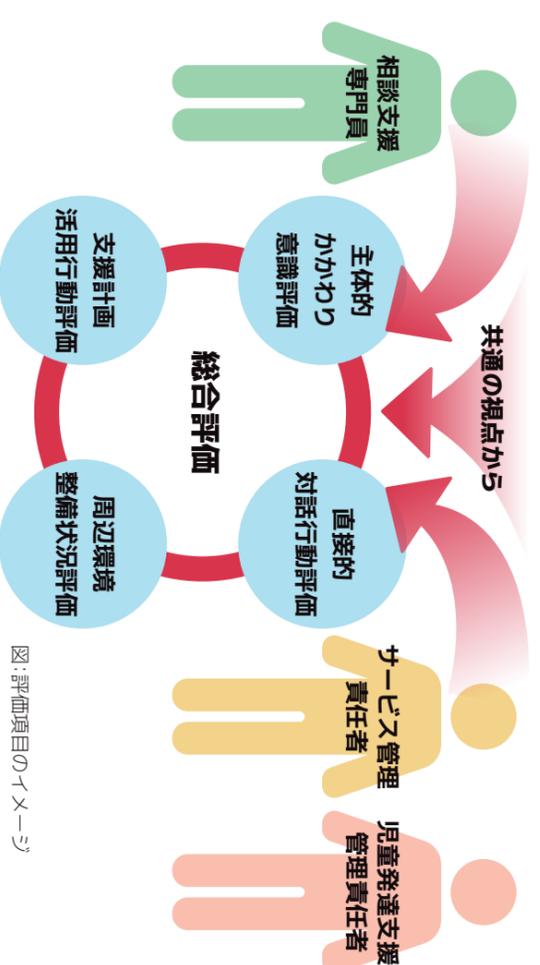
(ア) 連携評価シートについて (シートの具体的な内容は記入方法参照)

「連携評価シート」の項目は、相談支援専門員・サビ児管双方の視点から共通した評価が進められるように設定しました。同じ視点から評価できることで、ツールを通して連携に関する共通理解となることを想定しています。

以下の4つの大項目と、それらを構成する下位項目があります。

- ① 直接的対話行動評価 (9項目)
- ② 支援計画活用行動評価 (6項目)
- ③ 主体的かかわり意識評価 (25項目)
- ④ 周辺環境整備状況評価 (10項目)

また、4つの項目についてそれぞれの平均値を算出したものを「総合」評価としました。



(イ) 各大項目と下位項目について

① 直接的対話行動評価

実施者が記入時に想定した連携対象に対して、直接的なやりとり(かかわり)を中心として、対話(双方向性)につながる具体的な行動の実施状況に関して評価する項目です。会議場面を中心にどのような行動をとっているのかを見える化します。

業務としても支援の状況を確認するために会議(オンライン会議含む)等が実施されることもあり、連携を具体的に進めるにあたって重要な要素の一つとなります。

下位項目については以下9項目の内容となります。

1	相談支援専門員及びサビ見管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)に参加している
2	相談支援専門員及びサビ見管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)を主催している
3	相談支援専門員及びサビ見管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の記録を共有している
4	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている
5	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での発言を積極的にやっている
6	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の欠席時、記録などの情報を共有している
7	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での内容を支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)に反映させている
8	支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)の内容について意見交換をしている
9	サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ見管で相互に確認している

② 支援計画活用行動評価

相談支援専門員やサビ見管が担っている重要な役割の一つとして、「支援計画書(サービス等利用計画書・個別支援計画書)」の作成、また、計画を共有・連動させて具体的な支援につなげていくことが挙げられます。支援計画書を中心に、その内容に対して情報を共有し、確認をしているかといった行動状況を評価する項目です。作成された支援計画書(サービス等利用計画書・個別支援計画書)等の共有を中心に見える化します。

下位項目については以下6項目の内容となります。

10	支援計画書(サービス等利用計画書・個別支援計画書)について利用者に関連する他事業所のものですべてを保持している
11	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の目標の連動について相談支援専門員とサビ見管は相互の合意を得ている
12	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、相談支援専門員とサビ見管で変更内容を共有している
13	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している
14	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ見管で共有している
15	モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している

③ 主体的かかわり意識評価

実施者が記入時に想定した連携対象に対して、関係性構築に向けた自らのかかわり方(行動)を意識しているか、どのような関係が構築できているととらえているかといった視点に関して評価する項目です。いわゆる「顔が見える関係」状況やそれを構築していくための「かかわり」について見えます。

この項目を通して、連携を進めるための基盤となる「かかわり」について見えます。

下位項目については以下25項目の内容となります。

16	必要な情報はリアルタイムに(素早く)相談支援専門員とサピ児管で共有を行っている
17	定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサピ児管で行っている
18	決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサピ児管で定期的な連絡を取っている
19	担当利用者のことでかわかる相談支援専門員またはサピ児管の顔と名前がわかっている
20	担当利用者のことで相談支援専門員またはサピ児管に躊躇せずに連絡ができる
21	担当利用者のことで相談支援専門員またはサピ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている
22	担当利用者のことで相談支援専門員またはサピ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている
23	担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサピ児管へ相談できる
24	利用者のことで初めてかわかる相談支援専門員またはサピ児管とは、集中的に連絡を取るようになっている
25	利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサピ児管へ意見を伝えられる
26	支援のための役割分担が相談支援専門員とサピ児管の間で明確にされている
27	自身が提供しているサービス(支援)の具体的な内容を相談支援専門員やサピ児管に伝えている
28	相談支援専門員またはサピ児管が提供しているサービス(支援)の具体的な内容について情報収集している
29	利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている
30	関わる相談支援専門員またはサピ児管の性格がわかっている
31	関わる相談支援専門員またはサピ児管の支援に対する価値観がわかっている
32	関わる相談支援専門員またはサピ児管の支援におけるつきあい方がわかっている
33	関わる相談支援専門員またはサピ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている
34	相談支援専門員またはサピ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている
35	相談支援専門員またはサピ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている
36	相談支援専門員またはサピ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている
37	相談支援専門員またはサピ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができている
38	相談支援専門員またはサピ児管に知りたいたいことを気軽に聞ける
39	相談支援専門員またはサピ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている
40	相談支援専門員またはサピ児管が関わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している

④ 周辺環境整備状況評価

実施者が記入時に想定した連携対象に対して、より効率的・効果的に連携を行うためには、それを可能とする環境が影響します。実施者個人内にある要因のみでなく、連携を促進する(連携のしやすさ、質を高める)環境整備が整っているかに関して評価する項目です。

近年では、ICTを活用した会議や面談なども広がっており、そうした環境の整備、また、アドバイスを受けたり、連携に関する知識・技術を高める機会(研修やスーパービジョンなど)も重要となります。加えて、緊急時や必要時の対応についても整えられているかといった視点から見えます。

下位項目については以下10項目の内容となります。

41	所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる
42	オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている
43	メールやICTを活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている
44	所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある
45	所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある
46	所属組織の中に、スーパービジョン(支援を検討するためのアドバイザーなど)体制が整っていると感じる
47	所属組織がある地域に、スーパービジョン(支援を検討するためのアドバイザーなど)の環境が整っていると感じる
48	利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めている
49	必要時にすぐにアクセスできるよう利用者の記録情報がわかりやすく整理されている
50	利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している

補助項目

大項目のまとめりとして分類されなかった項目になります。

必要に応じて実施することで、評価を補足します。

下位項目については以下7項目の内容となります。

51	個別支援計画の内容について相談支援専門員とサピ児管で相互に確認している
52	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の内容の運動について相談支援専門員とサピ児管は相互の合意を得ている
53	面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサピ児管に提供している
54	利用者の支援にかかわる各種会議記録について、必要な際に相談支援専門員またはサピ児管へ提供している
55	相談支援専門員とサピ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している
56	支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサピ児管で情報交換を行っている
57	利用者の支援につながりそうな地域に関する情報を相談支援専門員とサピ児管で交換している

活用する専門職の想定は以下となります。

相談支援専門員
サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者

※その他の方もご活用いただくことは可能です。

本シートは、

- ①相談支援専門員は、サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者を
 - ②サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者は、相談支援専門員を
- 想定して記入することが基本となります。

●連携評価シートは、実施者(記入者)が、自身の現状について主観的に評価(自己評価)をしていただくことが基本となります。

●シートはMicrosoft Excelのファイル形式となっています。
パソコンを用いて必要項目を記入することで、自動でグラフが表示されます。
(印刷して手書きでも使用が可能です)

手順 (Excelの場合)

1. 「評価シート」の上部に実施者の「所属」「職種」「実施者名」を記入します。
また、「(連携の対象)」を具体化して想定する場合は、こちらも記入してください。
※連携の対象とは、実施者が記入に際して想定する具体的な連携相手となります。一人(例:A相談支援専門員個人等)を想定する場合もあれば、複数(例:1年間でやり取りしたサビ管等)を想定する場合もあります。
 2. シート右上に実施日を記入します。(3回分まで同じシートで記入できます。Excelの場合)
 3. 項目の内容について、シート右の記入欄へ1～6の間で数字(半角)を記入(または選択)していきます。
なお、実施日と同じ回の欄に記入してください。
- 数字は「1(全く当てはまらない)」～「6(十分に当てはまる)」となります。
4. 必要な場合は、補助項目についても数字を記入してください。
 5. 入力された数字から、シートの下部に大項目全体に関するグラフ(平均値)、下位項目別に関するグラフ(入力値)が表示されます。
 6. 必要な場合は印刷出力も可能です。

連携評価シート

No.1～No.50の点數欄(当てはまる実施日)に数字「1(全く当てはまらない)」～「6(十分に当てはまる)」を得意欄に記入して下さい。(必要項目は強制項目は省略) ※年別・月別・半期・四半期の管理責任者、及び児童発達支援管理責任者

所属 相談支援専門員 サービス管理責任者 児童発達支援管理責任者 その他 (当てはまるものに○)

職種 相談支援専門員 サービス管理責任者 児童発達支援管理責任者 その他 (当てはまるものに○)

実施者名 (連携の対象)

No.	項目	1回目	2回目	3回目	項目番号
1	相談支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の目標の運動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている	2	3	4	①1
2	相談支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している	2	3	4	①2
3	相談支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している	2	4	5	①3
4	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)のとき	2	4	5	①4
5	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)のとき	2	4	5	①5
6	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)のとき	2	3	5	①6
7	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)のとき	2	3	5	①7
8	支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)の内容について	2	3	4	①8
9	サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している	2	3	4	①9
10	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している	3	2	2	②1
11	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の目標の運動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている	3	2	4	②2
12	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している	3	2	4	②3
13	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している	3	2	4	②4
14	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している	3	2	4	②5
15	モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している	3	2	4	②6
16	必要な情報はリアルタイムに(素早く)相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている	4	2	5	③1
17	定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている	4	3	5	③2
18	決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている	2	3	5	③3
19	担当利用者のことでかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている	1	3	5	③4
20	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる	2	3	5	③5
21	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている	2	4	5	③6
22	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている	2	4	5	③7
23	担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる	3	4	5	③8
24	利用者のことで初めてかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようになっている	3	5	5	③9
25	利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる	3	2	5	③10
26	支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている	2	2	5	③11
27	自身が提供しているサービス(支援)の具体的な内容について情報収集している	3	2	5	③12
28	相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス(支援)の具体的な内容について情報収集している	2	3	5	③13
29	利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている	1	2	5	③14

記入が終了したら、「参考用」シートも確認してください。

赤枠内を記載する

・必要に応じて連携の相手(個人・複数など)を想定したうえで記載してください。
・現在自分かどのようにとらえているのかを「1(全く当てはまらない)」～「6(十分に当てはまる)」の範囲で記載。

結果グラフ



①周辺環境整備状況
②支援計画活用行動
③主体的かわり意識
④直接的対話行動評価

数字は項目別番号に対応。
シートの番号と照らし合わせて確認。

表に数値を入力すると青枠にグラフ等で概要が表示。また、必要な人は「参考用」シートも確認。

シートに数値を入力することで、
グラフが作成されます。

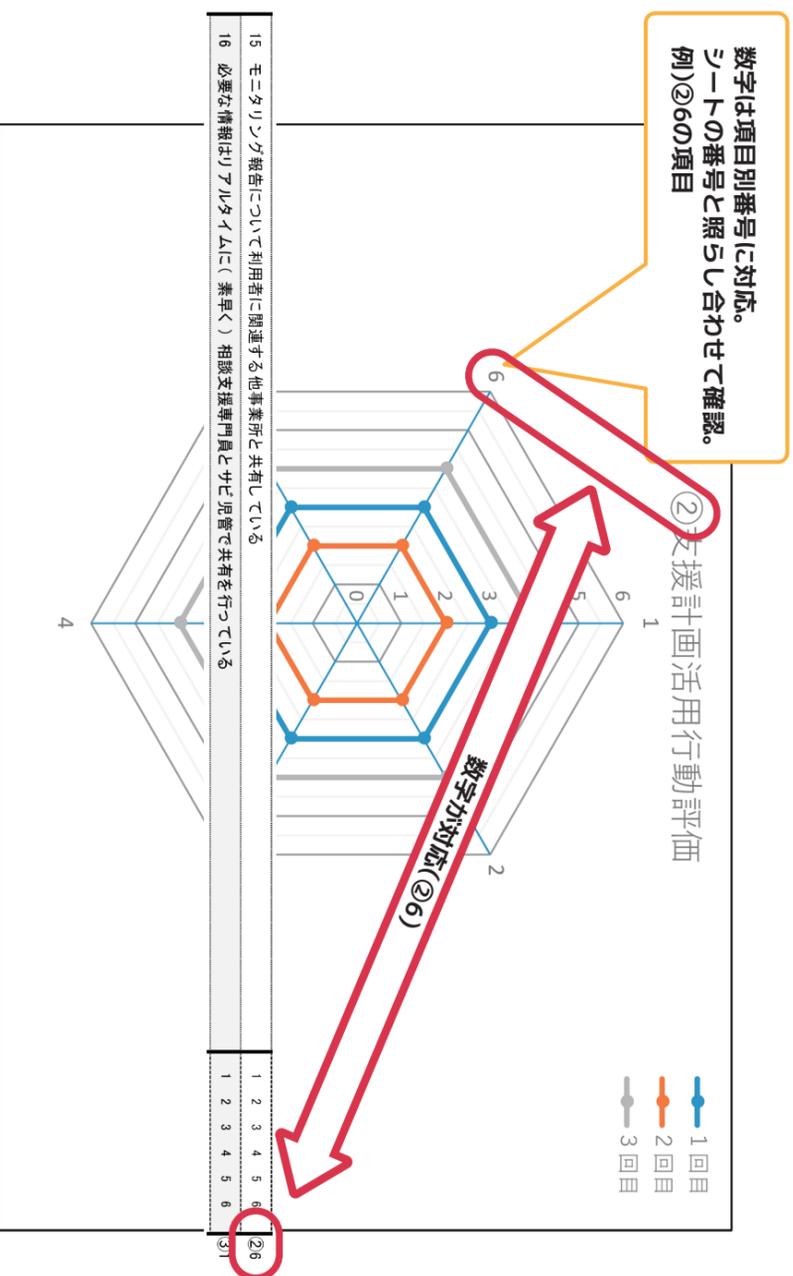
図:連携評価シート例(赤い囲みにして記入していきます)

4 入力した内容の読み取りについて

連携評価シートは、主に自己評価として個人の連携状況を評価し、見える化することを目的としています。入力シートは3回分の入力を可能としています。

1年目、2年目、3年目と経過を追って縦断的に活用することも可能です。(Excelの場合)

- 数字が大きいほど実施できている項目、意識できている項目ととらえることができます。
- 大項目別のグラフには下位項目の番号が記載されています。それぞれ「項目別番号と対応」しているので、項目を照合して確認します。
- グラフの中で他より低くなっている項目があった場合は、苦手であったり、うまくいってなかったりする項目かもしれません。今後意識することで改善や向上につながることも考えられます。



補足

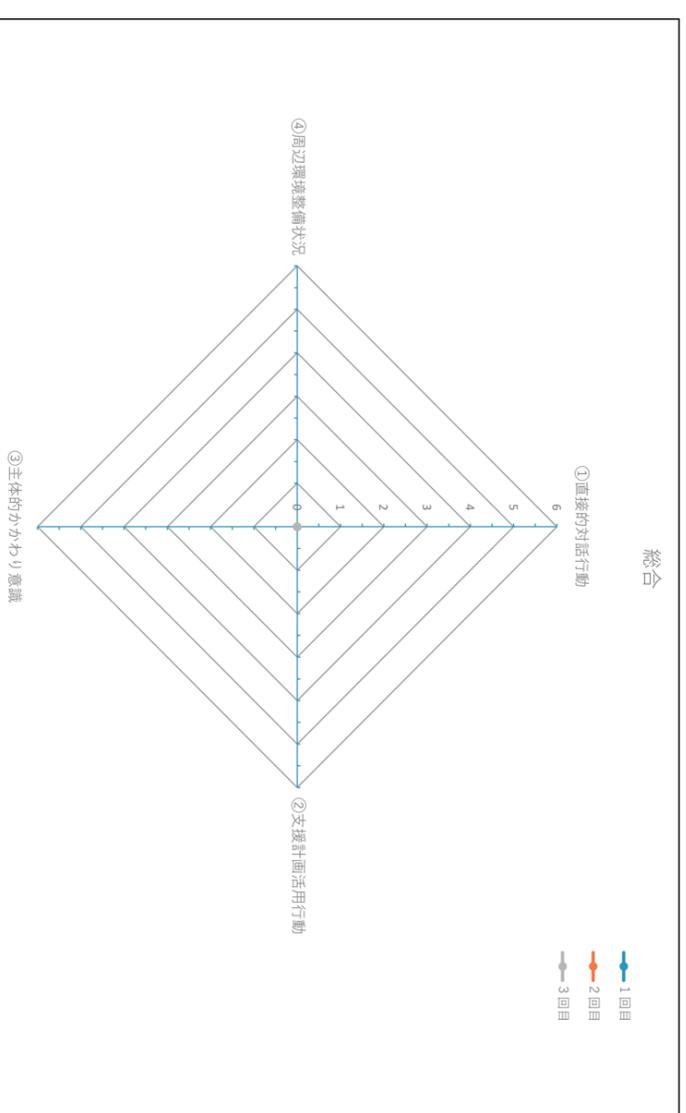
「参考用」シートには、全国調査における平均値が記載されています。見える化された自身の数値と比べることが可能です。ただし、本数値はあくまでも参考値であり、平均値より高いから十分、低いから不十分とは一概に言えませんので注意して活用してください。

(ア) グラフについて

総合評価

4つの大項目からの全体像について視覚的に確認します。大項目別の平均値が記載されます。

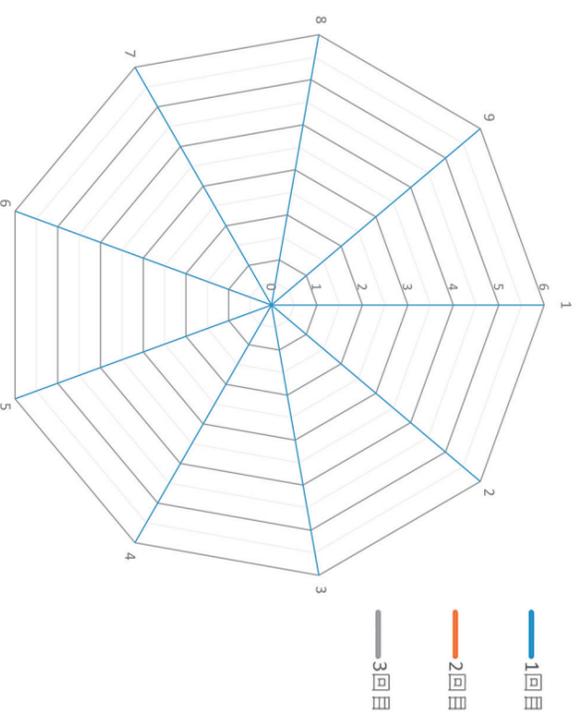
- ① 直接的対話行動評価 (9項目)
- ② 支援計画活用行動評価 (6項目)
- ③ 主体的かかわり意識評価 (25項目)
- ④ 周辺環境整備状況評価 (10項目)



① 直接的対話行動評価(9項目)

9項目のグラフとなります。グラフの番号はシート①の「項目別番号」と対応します。項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(設問番号と照合する場合は1～9です)

①直接的対話行動

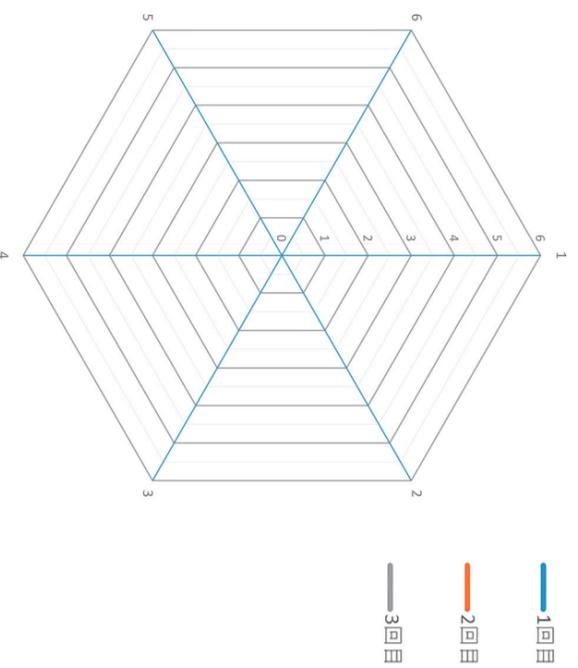


図：直接的対話行動グラフ例

② 支援計画活用行動評価(6項目)

6項目のグラフとなります。グラフの番号はシート②の「項目別番号」と対応します。項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(設問番号と照合する場合は10～15です)

②支援計画活用行動

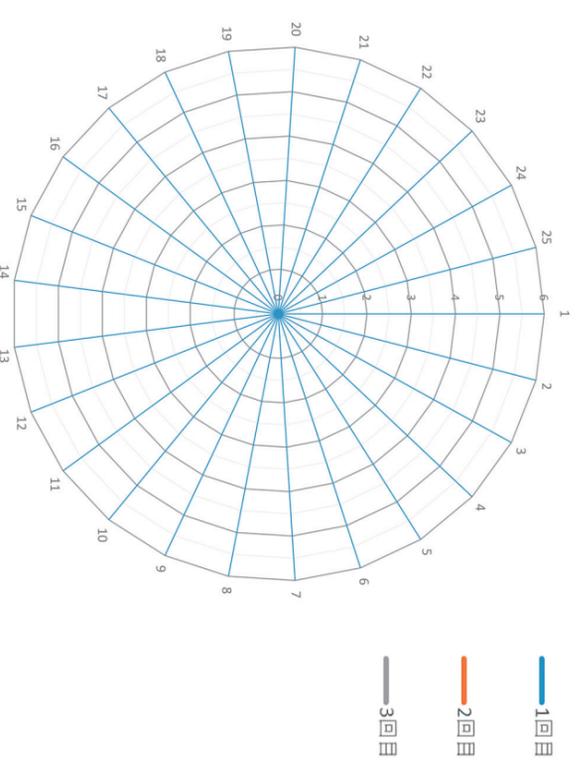


図：支援計画活用行動グラフ例

③ 主体的かかわり意識評価(25項目)

25項目のグラフとなります。グラフの番号はシート③の「項目別番号」と対応します。項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(設問番号と照合する場合は16～40です)

③主体的かかわり意識

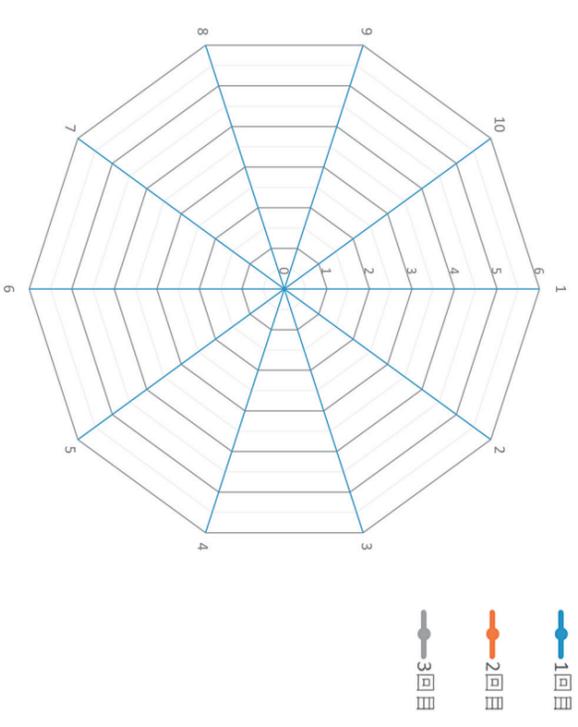


図：主体的かかわり意識グラフ例

④ 周辺環境整備状況評価(10項目)

10項目のグラフとなります。グラフの番号はシート④の「項目別番号」と対応します。項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(設問番号と照合する場合は45～50です)

④周辺環境整備状況



図：周辺環境整備状況グラフ例

5 活用方法

補助項目(7項目)

7項目のグラフとなります。グラフの番号はシート⑤の「項目別番号」に対応します。
項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(設問番号と照合する場合は51~57です)

⑤補助項目

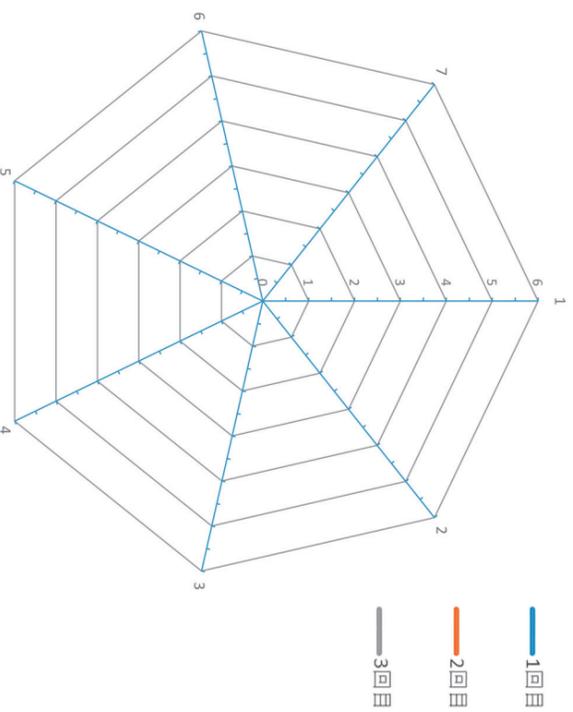


図:補助項目グラフ例

連携評価シートの評価結果は、実施者のニーズに合わせて、様々な活用が可能です。

使用する方の目的に合わせて活用してください。

評価結果として数値が算出されます。数値が小さい場合、その項目を意識して行動等につなげることで、連携の向上につながるかもしれません。(ただし、取り組みの中で実践する必要がない・機会がない項目などは数値が低くなっている場合があります)

主に個人が活用することが想定されます。活用方法について下記に例示します。

活用例 1 個人による連携状況に関する自己評価

活用場面

相談支援専門員(サビ見管)が一年間の業務の総括を行おうと考えた。利用者に関する支援計画(サービス等利用計画または個別支援計画)の作成を多数行ってきたが、担当ケースの利用先のサービス管理責任者(または相談支援専門員)とどのくらい連携を行っていたのか振り返り自己評価するために、シートを活用した。

※担当ケース数が多い場合は、印象が残ったケースを中心の記載となってしまうことも想定されます。

考えられる対応状況として最も多かったパターンケースを想定して記入するなど、

対象像を確認しましょう。

- **実施者**
相談支援専門員(サビ見管)
- **想定する連携対象**
担当利用者(自身が計画を作成した利用者)の全てのサビ見管(相談支援専門員)(複数)

活用効果イメージ

 実施した結果、実践の中であまり意識できていなかった項目が明らかとなり、今後の取り組みの中の目標設定につなげて取り組むことができました。

活用例 2 連携がうまくいっていないと感じた際状況確認

活用場面

初めて関わる相談支援専門員より連絡があり、新規利用者の対応を進めているが、相談支援専門員との連携がうまくいっていないと感じた。具体的に連携の課題となっている点が認識できないため、評価シートを活用して課題となっていそうな点を確認することにした。

●実施者

サビ児管

●想定する連携対象

相談支援専門員(1名)

活用効果例イメージ

連絡を取る時間帯について十分確認できていなかった。また、支援計画書の内容について相互のやり取りが充分ではなく、共有ができていなかったことがみえてきた。お互いの連絡がつきやすい時間帯を確認し、また、支援計画の共有についても提案したところ、相互に確認することができた。支援の方向性が共有され、よりよい支援展開につながった。

活用例 3 研修における自己評価を通して連携の質を高める

活用場面

相談支援専門員としてのスキルアップ研修が行われた。研修の中で相談支援専門員とサビ児管が連携することの重要性を改めて確認した。また、研修の中でこれまでに経験した困難事例について取り上げて、自身の連携に関する取り組み状況を振り返るために連携評価シートの活用が行われた。

●実施者

相談支援専門員

●想定する連携対象

困難事例ケースで関わったサビ児管(2名)

活用効果例イメージ

ある程度は連携の密な取り組みができていたと考えていたが、シートを用いて改めて振り返ることで、この事例で大切にしていた点が認識できた。特に記録に関して積極的の共有し、会議での対応を密に実施していた。今後の実践でも意識できると良い点が確認できた。

活用例 4 使用する大項目を絞った活用

活用場面

長らく関わっていた利用者の個別支援計画を作成しているX事業所の担当児童発達支援管理責任者が1年前に変更となった。これまで業務上の連絡やモニタリングの際に情報のやり取りは行っているが、直接関わる機会は多くない状況であった。X事業所はこれまでも定期的に新規利用者の相談をしていた先であり、今後も様々な利用者について相談できればと考えている。そこで、現在どれくらい関係性構築に向けた自らのかわり方(行動)を意識しているか、どのような関係が構築できているととらえているかといった視点を確認するため、「主体的かわり意識」に関する評価項目(25項目)に絞って評価を実施した。

●実施者

相談支援専門員

●想定する連携対象

児童発達支援管理責任者(1名)

活用効果例イメージ

業務上の必要と思われるかわり方はしているものの、相手の性格や価値観については理解できるようなかかわりをしていなかったことがみえてきた。より信頼感をもって一緒に仕事ができるようになるため、積極的に情報交換・連絡を行った結果、困難なケースなども含めて安心して相談・連携できる関係を築くことができた。

その他の活用例

- ・なかなかな相談できる人がいないとき、連携に関するセルフスーパービジョンの1つとして
- ・地域の専門職メンバーで共有し、地域の連携の現状について確認
- ・他者との共有が可能であれば、お互いの認識を確認 など

連携評価シート

№1～№50の点数欄(当てはまる実施日)に数字「1(全く当てはまらない)」「6(十分に当てはまる)」を得点欄に記入して下さい。(必要な方は補助項目も記載して下さい。) ※サビ児管＝サビ児管理責任者、及び児童発達支援管理責任者

所属 相談支援専門員 サビ児管理責任者 児童発達支援管理責任者 その他() (当てはまるものに○)

実施者名 (連携の対象)

実施日 (年月日)
 1回目
 2回目
 3回目

点数「1(全く当てはまらない)」「6(十分に当てはまる)」

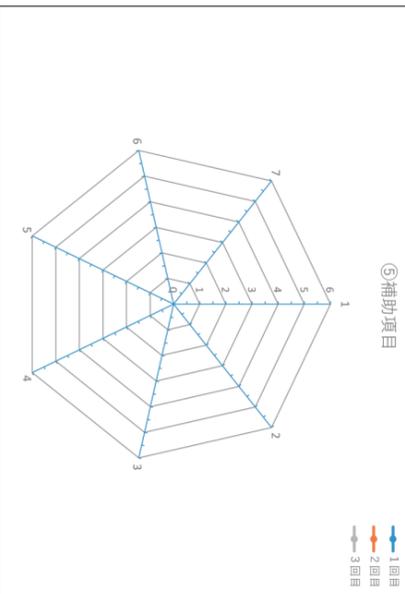
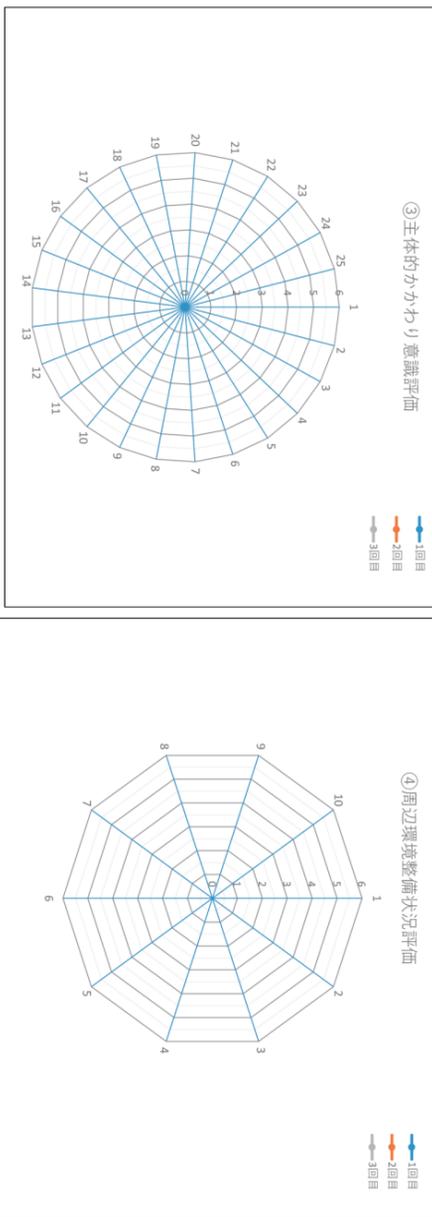
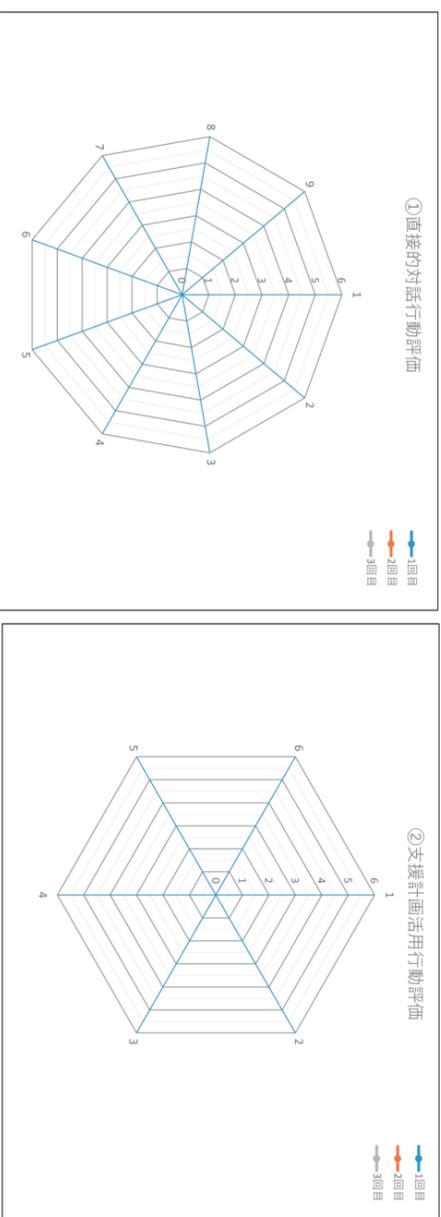
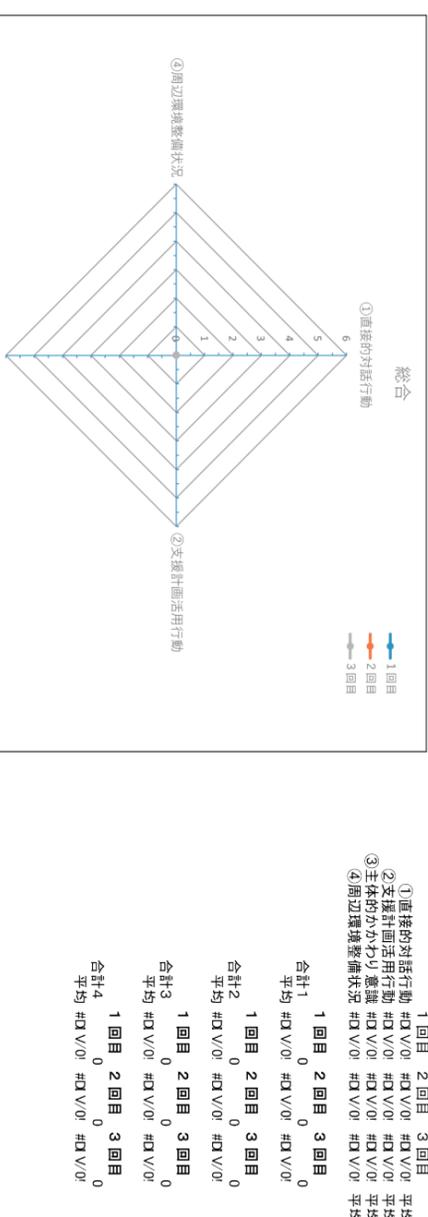
No	項目	1回目			2回目			3回目		
1	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サビ児担当者会議など)に参加している									
2	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サビ児担当者会議など)を主催している									
3	相談支援専門員またはサビ児管の情報を検討する会議(サビ児担当者会議など)の記録を共有している									
4	利用者の支援を検討する会議(サビ児担当者会議など)のときに、必要としていることを考え情報提供を行っている									
5	利用者の支援を検討する会議(サビ児担当者会議など)の欠席時は、記録などの情報を共有している									
6	利用者の支援を検討する会議(サビ児担当者会議など)での内容を支援計画(サビ児等利用計画や個別支援計画)に反映させている									
7	支援計画(サビ児等利用計画や個別支援計画)の内容について意見交換を行っている									
8	サビ児等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している									
9	支援計画(サビ児等利用計画・個別支援計画)の目標の運動について利用者に関連する他事業所も共有している									
10	支援計画(サビ児等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管が相互に確認している									
11	支援計画(サビ児等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管が相互に確認している									
12	支援計画(サビ児等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管が相互に確認している									
13	支援計画(サビ児等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も共有している									
14	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している									
15	モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している									
16	必要な情報はリアルタイムに(素早く)相談支援専門員とサビ児管で共有している									
17	定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている									
18	決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的な連絡を取っている									
19	担当利用者のことでかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている									
20	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管に連絡がとれる									
21	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている									
22	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法を共有している									
23	担当利用者のことで初めてかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集約的に連絡を取るようにしている									
24	利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員とサビ児管で共有している									
25	利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員とサビ児管へ意見を伝えられる									
26	支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている									
27	自身が提供しているサビ児(支援)の具体的な内容を相談支援専門員とサビ児管に伝えている									
28	相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサビ児(支援)の具体的な内容について情報収集している									
29	利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている									
30	関わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている									
31	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかっている									
32	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援におけるつきあい方がわかっている									
33	関わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている									
34	相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている									
35	相談支援専門員またはサビ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている									
36	相談支援専門員またはサビ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている									
37	相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができている									
38	相談支援専門員またはサビ児管に知りたいたいことを気軽に聞ける									
39	相談支援専門員またはサビ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている									
40	相談支援専門員またはサビ児管が関わる個別の問題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している									
41	所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じている									
42	オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている									
43	メールやOTを活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている									
44	所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある									
45	所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある									
46	所属組織の中に、スーパービジョン(支援を検討するためのアドバイザーなど)体制が整っていると感じる									
47	所属組織がある地域に、スーパービジョン(支援を検討するためのアドバイザーなど)の研修が整っていると感じる									
48	利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先が決まっている									
49	必要時にすぐにアクセスできるように利用者の記録情報がわかりやすく整理されている									
50	利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している									

※補助項目

No	項目	1回目	2回目	3回目
51	個別支援計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している			
52	支援計画(サビ児等利用計画・個別支援計画)の内容の運動について相談支援専門員とサビ児管が相互の合意を得ている			
53	面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサビ児管に提供している			
54	利用者の支援にかかわる各種会議記録について、必要の際に相談支援専門員またはサビ児管へ提供している			
55	相談支援専門員とサビ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している			
56	支援するために、十分な時間を使い相談支援専門員とサビ児管で情報交換を行っている			
57	利用者の支援につながるよう、十分な地域に関する情報を相談支援専門員とサビ児管で交換している			

記入が終了したら、「参考用」シートも確認してください。

結果グラフ



本連携評価ツールに関するご意見・お問い合わせは、フォームよりお願いします。



フォーム

<https://forms.gle/qX8xoQmyiK4Saw6Y9>



相談支援専門員・サービス管理責任者/児童発達支援管理責任者
連携評価ツール 活用マニュアル Ver.1.0

2023年3月発行

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者
の連携に関する評価ツールの開発のための研究チーム

研究代表者 近藤尚也(北海道医療大学看護福祉学部)

本連携評価ツール(マニュアル・連携評価シート)は、令和4年度において、厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)を受け実施した研究の成果として作成しました。

令和4年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

分担研究年度終了報告書

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する
評価ツールの開発のための研究

「相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携因子の検討」

研究分担者 金澤潤一郎 北海道医療大学

研究要旨

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者における連携について、全国調査から得られたデータをもとに、因子分析からその要因を明らかとし、連携評価ツール開発に向けた基礎資料得ることを目的とした。2021年度に研究組織で作成に取り組んだ調査票による全国アンケート調査結果について、欠損値があるデータを除外したところ、2655件の回答が有効回答であった。因子分析の結果、4因子50項目に整理することができた。

A.研究目的

相談支援専門員と、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者（以下、サビ児管）の連携評価ツール開発に向け、連携に関する評価尺度を作成する基礎資料を得ることを目的とした。

B. 研究方法

2021年度に研究組織で作成、合計9,000件の全国調査調査を行った連携に関する調査票（連携に関する項目57項目）についてSPSS（Ver.26）を用いて最尤法・Promax回転にて因子分析を行った。対象のデータは欠損値のあるデータを除いた有効回答は2655件であった。

（倫理面への配慮）

本研究は、北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究科倫理審査委員会によ

る審査の上、承認を得て実施した。

（21N020020、21N028027）

A. 研究結果

2021年度実施した全国調査の結果を用いて、最尤法による因子分析を行ったところ、4因子構造が妥当と考えられ、再度4因子を仮定して最尤法・Promax回転による因子分析を行った。さらに、因子で0.4未満の因子負荷量であったもの、または2因子以上で0.3以上の因子負荷量を示した項目を除外し分析した結果、50項目、4因子となった。回転前の4因子で50項目の全分散を説明する割合は56.302%であった。

第1因子は25項目で構成されており、「担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている」「相談支援専門員または

サビ児管に知りたいことを気軽に聞ける」など、相手とのかかわりに関する主観的内容の項目が高い負荷量を示していた。第2因子は9項目で構成されており、「利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている」「利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での発言を積極的に行っている」など、会議の場などで直接やり取りを行う行動に関する内容の項目が高い負荷量を示していた。第3因子は10項目で構成されており、「所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある」「所属組織の中に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）体制が整っていると感じる」など、周辺環境状況に関する内容の項目が高い負荷量を示していた。第4因子は6項目で構成されており、「支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している」「支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している」など、支援計画に関わる行動に関する内容の項目が高い負荷量を示していた。（表1、表2）

また、内的整合性を検討するために α 係数を算出したところ、「第1因子」で $\alpha = .97$ 、「第2因子」で $\alpha = .873$ 、「第3因子」で $\alpha = .867$ 、「第4因子」で $\alpha = .873$ と十分な値が得られた。

D. 考察

第1因子は連携をとるための意識面に加

え、連携をとるための行動面に関する項目についても含まれており、項目数の多い因子となった。第2因子は連携を深める会議を中心とした行動面について、第3因子は連携を充実させる環境面について、第4因子は支援計画を通じた情報共有に関する行動面に関する項目が集まっていた。第1因子については、項目数が多くなる傾向となるため、データ取集と分析を重ねて項目の整理が必要であると考えた。また、得られた因子は項目設定時に仮説としていた意識面、行動面、環境面におおよそ集約していく結果が確認された。

E. 結論

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者における連携について、全国調査から得られたデータをもとに、連携に関する57項目について因子分析を行った結果、4因子50項目に整理することができた。得られた結果を参考に連携評価に関する尺度として、連携評価ツールに活用していく。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

特記事項なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

特記事項なし

表1 因子分析結果

	1	2	3	4
担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている	0.942	0.022	-0.063	-0.154
相談支援専門員またはサビ児管に知りたいことを気軽に聞ける	0.918	-0.014	-0.01	-0.138
関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援におけるつきあい方がわかっている	0.863	0.048	-0.02	-0.076
関わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている	0.851	-0.005	-0.019	-0.025
担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる	0.845	0.012	-0.001	-0.161
相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができている	0.834	-0.006	0.008	-0.025
関わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている	0.81	0.042	-0.04	-0.094
相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている	0.809	-0.007	0.04	0.009
担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる	0.807	0.017	-0.062	-0.061
担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている	0.807	0.017	-0.078	-0.053
関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかっている	0.783	0.051	-0.031	-0.026
利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる	0.747	-0.035	0.019	0.061
担当利用者のことでかかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている	0.735	0.008	-0.021	-0.07
相談支援専門員またはサビ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている	0.72	-0.041	0.039	-0.003
相談支援専門員またはサビ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている	0.699	-0.008	0.109	-0.137
支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている	0.682	-0.013	0.009	0.152
自身が提供しているサービス（支援）の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている	0.669	-0.038	0.045	0.151
定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている	0.657	-0.051	0.018	0.151
相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス（支援）の具体的な内容について情報収集している	0.652	-0.032	0.013	0.233
必要な情報はリアルタイムに（素早く）相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている	0.649	-0.047	0.025	0.108
相談支援専門員またはサビ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている	0.638	0.051	-0.031	0.093
利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている	0.61	-0.029	0.088	0.073
決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている	0.589	-0.004	-0.044	0.211
利用者のことで初めてかかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようになっている	0.579	0.007	0.002	0.218
相談支援専門員またはサビ児管が関わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している	0.521	0.048	0.041	0.222
利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている	0.026	0.844	0.001	-0.12
利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での発言を積極的にしている	0.005	0.813	0.011	-0.083
利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での内容を支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）に反映させている	-0.028	0.754	0.002	0.036
利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の欠席時は、記録などの情報を共有している	-0.029	0.689	0.005	0.044
相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）を主催している	-0.017	0.665	0.009	-0.016
相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の記録を共有している	0.017	0.649	0.017	0.029
支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）の内容について意見交換をしている	0.024	0.612	-0.031	0.141
サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している	0.022	0.497	-0.003	0.219
相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）に参加している	0.013	0.44	0.006	-0.017
所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある	-0.041	0.001	0.717	-0.036
所属組織の中に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）体制が整っていると感じる	-0.059	0.009	0.715	0.011
所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある	-0.03	0.021	0.699	-0.034
所属組織がある地域に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）の環境が整っていると感じる	-0.081	0.02	0.694	0.043
メールやICTを活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている	0.179	-0.015	0.615	-0.04
利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している	-0.065	0.008	0.585	0.018
利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めている	-0.057	-0.017	0.558	0.036
必要時にすぐにアクセスできるように利用者の記録情報がわかりやすく整理されている	-0.022	-0.004	0.554	0.011
所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる	0.135	-0.003	0.553	-0.018
オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている	0.16	0	0.542	-0.027
支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している	-0.06	0.01	-0.008	0.855
支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している	0.092	-0.036	-0.014	0.818
モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している	-0.008	0.044	-0.002	0.706
支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の目標の運動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている	0.178	0.003	-0.007	0.684
利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している	0.212	-0.036	0	0.587
支援計画書（サービス等利用計画書・個別支援計画書）について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している	0.055	0.129	0.027	0.409

因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法
a 5 回の反復で回転が収束しました。

表2 因子相関行列

因子	1	2	3	4
1	1	0.208	0.367	0.631
2	0.208	1	0.045	0.305
3	0.367	0.045	1	0.239
4	0.631	0.305	0.239	1

因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

令和 4 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

分担研究報告書

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する
評価ツールの開発のための研究

「連携評価ツール活用マニュアルの検討」

研究分担者 大久保 薫 札幌学院大学

研究要旨

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者における連携について、開発した連携評価シートの活用を促進していくための「活用マニュアル」について、その活用を効果的に進めるための掲載内容を整理することを目的とした。活用マニュアル案について会議及び委員会形式で意見交換・情報収集を行い、明らかとなった内容をもとにマニュアルに反映することで、効果的に活用可能なマニュアルへつなげることができた。

A. 研究目的

本研究では、開発した相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者（以下サビ児管）における連携評価シートについてその活用を効果的に進めるための活用マニュアル記載内容を整理することを目的とした。

なお、研究では、連携評価シート（Excel ファイル）と、活用マニュアル（本取り組み）からなる「連携評価ツール」の開発を進めた。

B. 研究方法

これまでに開発された連携評価シートをもとに、マニュアルへの記載内容として、シートの入力方法のほか、記載すべき項目の検討、活用事例の検討を究組織会議及び検討委員会形式の意見交換から進めた。委員会は国内で活躍している相談支援専門員、サービス管理責任者、児童発達支援管理責

任者による検討委員会（9名）を組成し、作成した活用マニュアル案について、専門的知見から情報収集をこないマニュアルに反映させた。

（倫理面への配慮）

本研究は、北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究科倫理審査委員会による審査の上、承認を得て実施した。（21N020020、21N028027）

C. 研究結果

活用マニュアルについて、研究組織の会議にて検討し原案を作成した。大項目としては、「使用に関する留意点」「1. 連携評価ツールの背景とねらい」「2. 連携評価ツールの説明」「3. 連携評価シートの記入方法」「4. 入力した内容の読み取りについて」「5. 活用方法」となった。活用マニュアルの原案に対して検討委員会の実施から意見

交換を行った結果、記載内容への反映が行われた。主な反映点の1つとして、「使用に関する留意点」が挙げられた。内容として、点数そのものだけで良し悪しを決めるものではない点を追加した。本ツールのねらいとしては、連携状況の「見える化」から客観的にとらえ支援の質の向上を目指しており、ツール活用を通じた自己理解を一つの視点として整理した。また、「5. 活用方法」について、活用例の追加や、その他の活用例としてセルフスーパービジョンの視点、地域連携の現状確認、また他者との共有が可能であればお互いの認識を確認することなど、柔軟な活用が可能な視点を追記した。その他、活用マニュアルについて実践的専門的知見から情報を収集することができた。

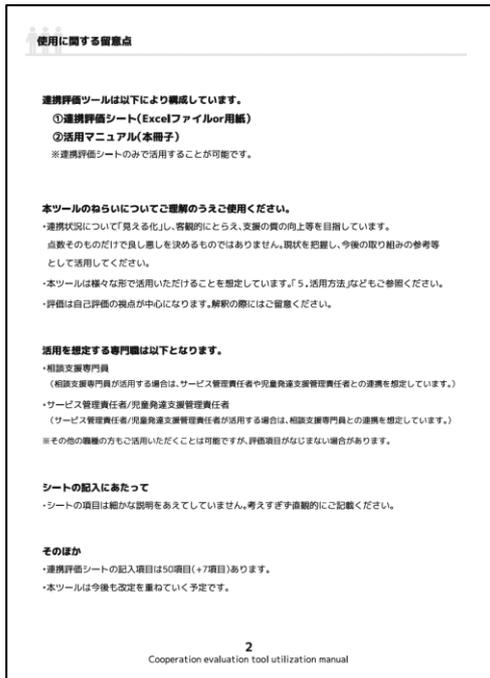


図1 追記したマニュアル例①

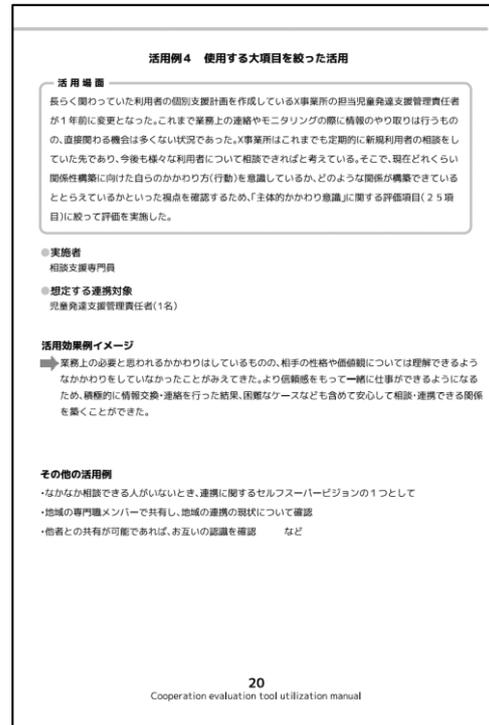


図2 追記したマニュアル例②

D. 考察

マニュアルは、初めて目にした人でも理解しやすいように作成をすすめることができた。今回開発を進めた連携評価ツールは柔軟な活用が可能となるように想定しており、マニュアルに内容も細かくなりすぎないように配慮している。一方で実践現場の中で効果的に活用を進めていくためには適切な情報量が必要でもある。そのような点も踏まえ、継続してマニュアルの記載内容を検討していくことも必要であると考えます。

E. 結論

本研究では開発した連携評価シートの活用を促進していくための「活用マニュアル」について、その活用を効果的に進めるための掲載内容を整理することを目的とした。今回、実践家の視点から活用について意見

別添 4

交換・情報収集を行い、マニュアルに反映することができた。今後も継続し、ツールの普及とともに効果的で、活用しやすいものとなるよう継続した取り組みが求められる。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

特記事項なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

特記事項なし

令和 4 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

分担研究報告書

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する
評価ツールの開発のための研究

「連携評価ツールの質的評価検証」

研究分担者 鈴木 和 北海道医療大学

研究要旨

開発した連携評価ツールについて研修会方式の取り組みを行い、連携評価ツールの説明、活用体験、意見交換を実施した。参加者は、対面、オンライン、オンデマンド方式で 121 名の参加が得られた。研修会終了後にアンケート調査を行ったところ 35 名の回答を得ることができた。ツールについて今後の業務に活用できると思うかの問いでは「思う」21 名「少し思う」10 名と活用し前向きなものが多かった。また、今後活用してみようと思うかについては、「思う」14 名「少し思う」18 名の回答を得ることができ、ツールの実践活用に関連した一定の評価を確認することができた。

A. 研究目的

本研究では、開発した連携評価ツールについて、研修会方式にて連携評価ツールの説明、活用体験後、意見交換を実施して、ツールの活用に関する評価を得ることを目的とした。

対象参加者の募集は、北海道地域の対象となる専門職が所属する事業所を、北海道が公開している登録事業者一覧からランダムサンプリングを行い郵送にて案内を送付した。また、専門職に関係する団体等を通して周知を依頼した。

B. 研究方法

北海道内にて勤務している相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者（以下サビ児管）を主な対象として、2023 年 3 月に研修会を実施し、アンケート調査を行った。

研修会の内容としては、全国調査に関する報告、評価ツールの説明、評価ツール活用体験（演習）、グループ意見交換（対面・オンライン参加者のみ）、全体報告（対面・オンライン参加者のみ）であった。

研修会は対面実施を基本としたが、参加しやすくなるよう、オンライン方式の参加、オンデマンド方式の視聴も可能とした。対面・オンライン参加者は、評価ツールの説明と合わせてグループワークも実施をした。

研修会終了後にアンケート調査を実施、アンケートの主な内容は、職種や年齢などの基本情報、現在専門職間の連携について課題を感じているか、研修会の内容は今後の業務に活用できるか、ツールに関する理解度、ツールに関する今後の活用について、などとして、主に 5 段階での回答を求めた。

(倫理面への配慮)

本研究は、北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究科倫理審査委員会による審査の上、所属機関長による承認を得て実施した。(23N001001)

C. 研究結果

実施した研修会は対面、オンライン、オンデマンド方式で 121 名の参加であった。

アンケート調査は、35 名から回答が得られた。回答者は、相談支援専門員 14 名、サービス管理責任者 10 名、児童発達支援管理責任者 4 名、その他 11 名であった。回答者の年代は、40 歳代が 14 名と最も多く、30 歳代 10 名、50 歳代 9 名、60 歳以上・20 歳代それぞれ 1 名となっていた。

アンケート各項目の回答についてみていくと、「現在、専門職間の連携について課題を感じていますか」では、「とても感じている」「少し感じている」がともに 45.7% (16 名) となっていた。(図 1)

「報告・研修会の内容は今後の業務に活用できると思いますか」では、「思う」が 60% (21 名) と最も多く、「少し思う」28.6% (10 名)、「どちらともいえない」11.4% (4 名) と続いていた。(図 2)

「連携評価ツールを今後活用してみようと思いますか」では、「少し思う」が 51.4% (18 名) と最も多く、「思う」40% (14 名)、「どちらともいえない」8.6% (3 名) と続いていた。(図 3)

連携評価ツールに関する意見(自由記述)では、「自分にとって足りない部分や、改善点がわかった」「相談支援専門員とサビ児管との関係性におけるリテラシーについて議

論を深めると良いと考えさせられた」「連携ツールについては、『見える化』出来ているところは非常に良い事」「本来業務の確認のきっかけになる」「入力も PC であれば簡単で、結果も即時出るところはストレスなく入力が出来た」といった肯定的な評価が多く挙げられていた。また、実際活用してみたことで、「連携はできているのではないかと、漠然に思っていたが、弱い点を明確にすることができた」といった活用効果に関する意見も見られた。一方で、「オンラインで気軽に入力でき、入力後にグラフが出る方式だと、もっと気軽に入力できる」「もう少しコンパクトになると取り組みやすい」「自己評価の結果、関係機関連携におけるアドバイスの的なものが表示されると更に次の課題に向けた動き出しに繋がるかと思った」といった今後の改善に向けた意見も得ることができた。

D. 考察

研修会形式にて連携評価ツールを説明・実践して、アンケート調査から評価を進めたところ、今後の業務等への活用に関して前向きな回答が多く、本ツールは実践現場においても一定程度活用可能なものと評価できると考える。また、自由記述においても、本ツールをきっかけとして、連携の意識化や業務の確認につながるといった意見がみられ、評価ツールを通じた支援の質の向上にもつながる点が示唆された。一方で、記入項目数や入力システムへの意見などさらなる改善に向けた評価も得ることができた。

E. 結論

開発した連携評価ツールの活用について

別添4

一定の評価を得ることができた。また、より良いツールとしていくための今後に向けた示唆も得ることができた。継続して改定への取り組みが望まれる。また、今回実施した研修会のような形で、ツールの活用について具体的に情報発信することも継続的に必要であると考えます。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

別添 4

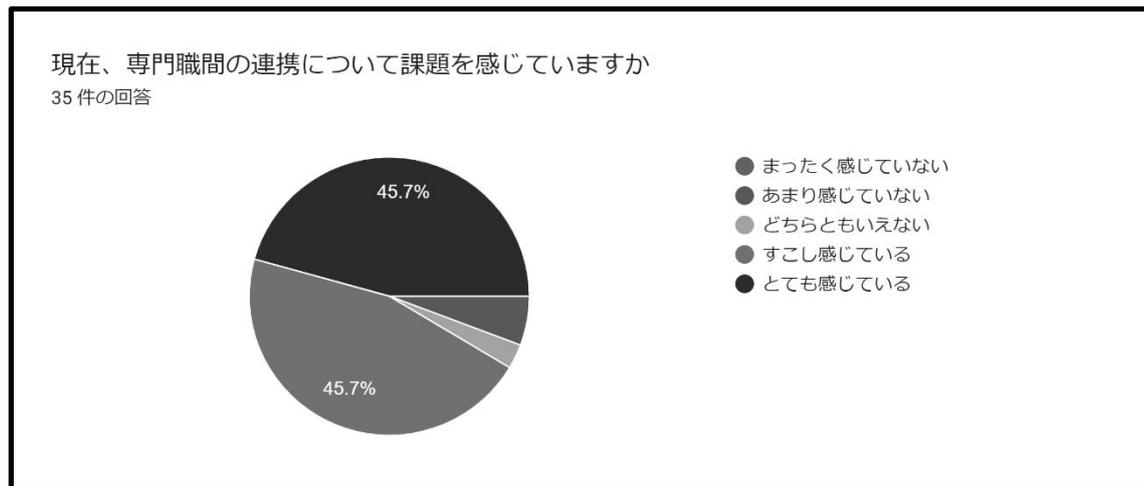


図 1

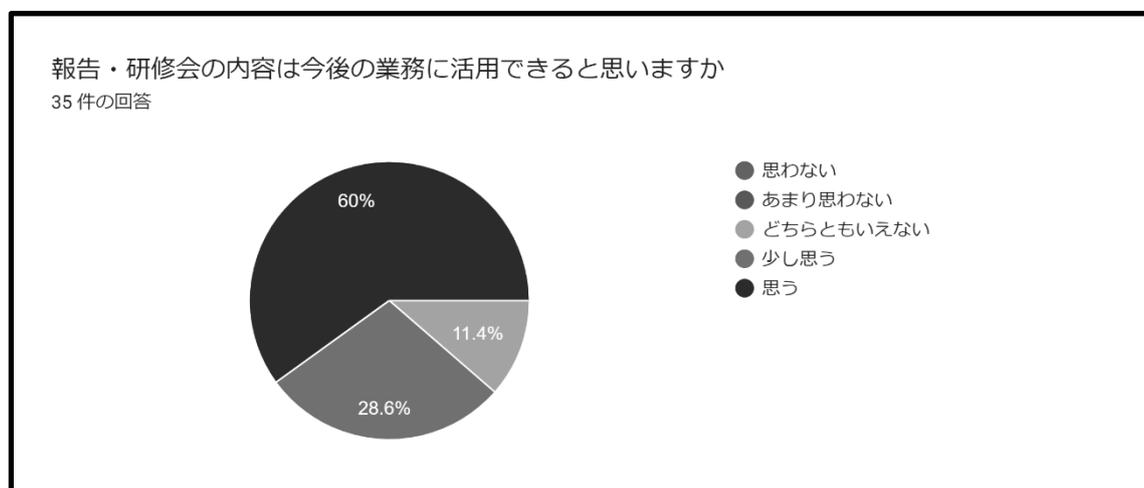


図 2

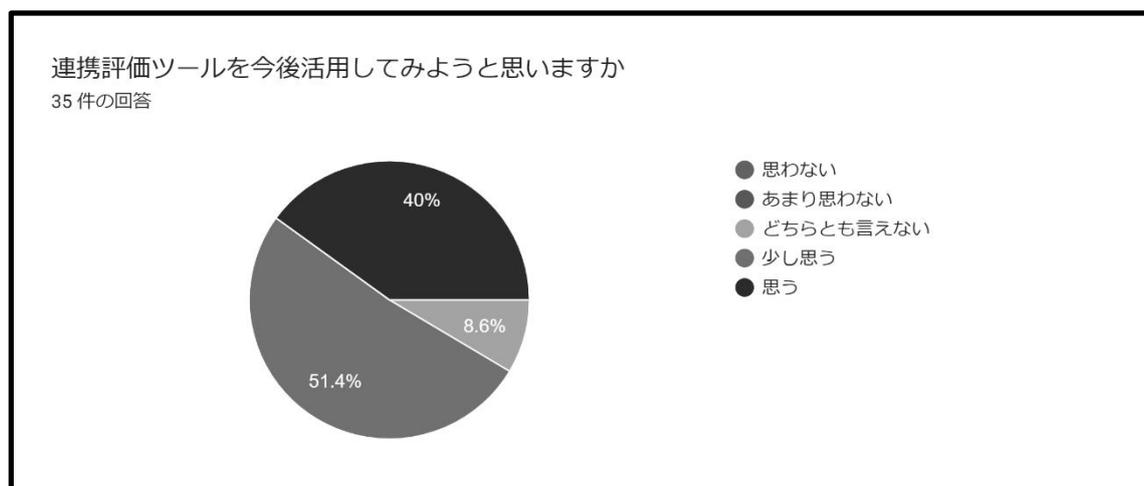


図 3

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
なし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
なし					

令和5年 5月 24日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 北海道医療大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 浅香 正博

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業

2. 研究課題名 相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する評価ツールの開発のための研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 看護福祉学部 講師

(氏名・フリガナ) 近藤 尚也 (コンドウ ナオヤ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	北海道医療大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年 5月 24日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 北海道医療大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 浅香 正博

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業
2. 研究課題名 相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する評価ツールの開発のための研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 心理科学部 准教授
(氏名・フリガナ) 金澤 潤一郎 (カナザワ ジュンイチロウ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	北海道医療大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 札幌学院大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 河西邦人

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業

2. 研究課題名 相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する評価ツールの開発のための研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 人文学部 教授

(氏名・フリガナ) 大久保 薫 (オオクボ カオル)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	北海道医療大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合はその理由: COI管理に該当する研究がほぼ無い)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: 北海道医療大学)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年 5月 24日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 北海道医療大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 浅香 正博

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業
2. 研究課題名 相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する評価ツールの開発のための研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 看護福祉学部 助教
(氏名・フリガナ) 鈴木 和 (スズキ ワタル)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	北海道医療大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。